

清陵同窓会報

自反而縮雖千萬人吾往矣

第25号 発行：諏訪清陵高校同窓会 〒392-8548 諏訪市清水 1-10-1 編集：会報編集委員会、第66回生（昭和35年入学）

「静かなる市中行進」を振り返る

39年前の1960年6月17日、800余名の清陵生と職員は黙々と諏訪市内を行進した。翌日の新聞は一斉に「静かなる市中行進」の見出しでこれを報道した。安保条約反対の国会への抗議デモに、日本中が蜂の巣をつついたような騒ぎとなっていた。高校生の政治活動の賛否を巡る意見も揺れに揺れる中で、清陵生は自分達

にできること、今なすべきことは何かを真剣に討議し、静かなる行進で意志の表明をしたのだった。

1999年の5月、日米防衛協力のためのガイドライン法案が可決された。この法案は、戦後50年間平和憲法を堅持してきた日本を戦争に巻き込む危険性が大きいと識者や野党から指摘されているにもか

かわらず、国民の間には大した反対行動の盛り上がりはなかった。

40年前のあの熱気は一体何だったのだろうか。このままだと真剣に賛否を戦わせた清陵生達の情熱も忘れ去られてしまうかも知れない。あの時1年生だった66回生が当番に当たる今年、当時を振り返っておきたい。



平成11年度 定期総会案内

1. 日 時 平成11年6月27日(日)
午後1時より(受付正午より)

1. 会 場 諏訪シティホテル成田屋

1. 議 事

- (1) 平成10年度 会務・決算・特別会計報告
- (2) 平成11年度 事業計画・収支予算審議

多数の会員のご来会をお待ち致します。

特に若い人、女性の方々お気軽においで下さい。

1. 記念講演 午後2時50分より

講師 東京大学大学院理学系研究科教授
同付属植物園園長(併任)

長田 敏行(66回生)

演題 「植物から見た地球」
—植物バイオテクノロジーと地球環境—

1. 懇親会 午後4時30分より

於 諏訪シティホテル成田屋

会 費 5,000円(当日受付で)

—諏訪清陵高等学校同窓会 会長 宮坂久臣(当番幹事66回生、次年度当番幹事67回生、サブ幹事76回生・86回生)

多事争論のなかに自由の気風が —— 60年安保の思い出 ——

高木 昭彦 (64回)

1960年5月から6月、いわゆる「安保闘争」で日本中が揺れていた。6月19日には、30万人が国会を取り囲み、全国で200万人がデモに参加していた。60年夏の日々は私にはついこの間の出来事のように、今も鮮明に思い出されるのだが、若い同窓生諸氏も多いことだから、当時の情勢等を振り返りながら一言述べてみることにする。当時のあのエネルギーは私のごときが語れるところではないのだけれど。

安保問題に世間の関心が一気に高まったのが5月19日深夜の衆議院での強行採決であった。会期はまだ1週間ほど残っていたのに、会期延長を与党だけで強行採決し、さらに会期延長をしながら何の審議もせず新条約を強行採決したのは異常な暴挙であった。しかも警察官500人を国会内に入れての強行採決であった。

なぜ突如として政府が強行採決を行ったかといえば、1カ月後の6月19日にアメリカ大統領アイゼンハワーの来日が予定されていたからである。それまでに新条約の自然承認を図るためには5月19日がタイムリミットであった。

岸信介首相のもつイメージ（A級戦犯）と強行採決、これが国民に大きな衝撃を与えた。「静かな請願デモ」はこの日以後激しい抗議行動に移っていった。強行採決は議会制民主主義の危機と多くの人々の目に映ったのである。

清陵では、社会部主催で談論会が行われ各クラスに資料も配付された。クラスの声明文が2階踊り場に貼り出された。学友会は6月1日に談論会を開催した。この談論会では安保

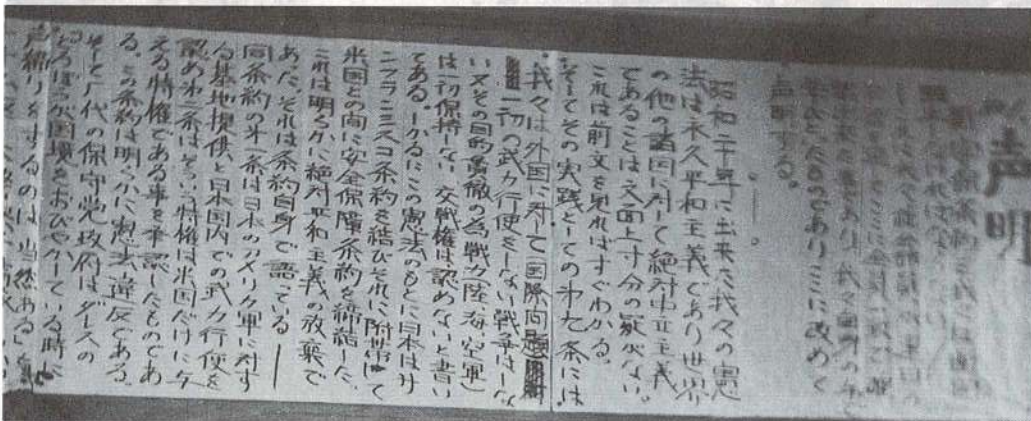
問題から、議会政治の在り方への疑念、高校生と政治問題に絡んで、教育基本法、はては「共産党宣言」批判まで飛び出し、議論が百出。つづいて3日、深志高校との交歓会を審議する総会で緊急動議が出され、「現今の問題について学友会総会で決議を行い、国会などに何らかの意思表示をしよう」との提案がなされた。「学友会の名において、国会の解散を要求すべき」とする意見が圧倒的に多かったが、「特定の政治運動をすることは教育基本法に違反する」といった意見も出て、学友会の名で決議し国会やマスコミに表明することが政治活動に当たるか否かで議論が沸騰した。学校側は、政治的問題を総会等で研究することは望ましいが、外部に働きかけることは政治活動とみなされるとの見解をとった。

4時間にわたる総会で結論が出ず、総会は翌日に持ち越し。翌4日の総会では就職希望者（当時50人くらいがいた）から「政治的声明を出すことによって就職の際どのような扱いを受けるかが不安だ」との意見が出され、結局マスコミなどへの声明文送付は見送りとなり、校内での発表にとどめることになった。本部は気抜けしたのだろうか、あっさりした短い声明文が出されただけであった。

6月15日夕方、右翼による新劇人グループや子供連れのデモ隊への攻撃から事態が急変した。全学連主流派の国会突入。機動隊による学生排除。この乱闘の中で東大生樺美智子さんが死亡した。全学連だけでなく他のデモ隊、あるいは通行人にまで警官隊の警棒が振るわれ、ラジオの実況が生々しくそれ

を伝え、それを聞いた市民がまた国会周辺へ集まった。また当時普及し始めていたテレビの画像を通して警官の暴行などが映し出された。まだニュースが十分意図的に「プロデュース」されずに放映される時代だったのだ。この事件、とくに一女子学生の死は深刻な衝撃を与えた。

6月16日、「安保研究集会」が開かれた。「われわれはせめてもの意思表示として、樺さんの死を



2階踊り場に貼り出された安保反対声明文

技術・夢・《三協精機》

世界第一のオルゴールメーカー《三協精機》。
その最先端技術が、夢を形にした。

時代を越えて甦る“人間の音”が
技術の粋による“心の音”が
感動と安らぎの世界へ誘います。

ファインメカニズム & インテリジェンス
三協精機
Sankyo 株式会社三協精機製作所

本社下諏訪工場 〒393-8511 長野県諏訪郡下諏訪町5329
TEL: 0266-27-3111 (代) FAX: 0266-28-5833
東京本社 〒105-8633 東京都港区新橋1-17-2
TEL: 03-3502-3211 (代) FAX: 03-3502-6228

Sankyo
誇り高い音の作品 — オルフェウス —
ORPHEUS

80弁ディスクオルゴール — ORPHEUS —
Traditional Style 801 [トラディショナル・タイプ]
Modern Style [モダン・タイプ]



悼むとともに国会が正常に戻るよう市中行進をしよう」と緊急動議が提案され、集会は総会に切り替わった。6月の初めに開かれた総会においては、就職への悪影響、高校生の政治活動に反対などの意見もあったが、今回は圧倒的多数で市中行進をすることに決定した。「昨夜テレビで見たが、あまりにもひどい。止むに止まれぬ気持ちを大人に深く考えてもらおう」等々の意見がすべてで、行進反対の意見はまったく出なかった。

一方、学校側は「校長が県に出張で不在、校長不在中に行進を行うことは好ましくない」と反対を表明。校長も「外に向かったの行動は注意しなくてはならないから、行進を許可しない」と電話で伝えてきた。学友会は「教頭には校長の“職務代理”の権限があるのではないかと質し、質疑応答がなされた。

その間に「アイク訪日中止」の報が伝えられ、さらに「警察署が行進の届出を受諾した」とのニュースが入ってきて会員の感情は高まった。行進を行う旨を宣言し、校庭に整列を始めた。小雨降り出すなか、何人かの先生方が石垣の上から生徒に自粛を必死に呼びかけ、行進の中止を訴えた続けた。異常に興奮した空気なかで、学校と生徒との間で、やりとりが続いた。行進予定時間は6時から7時であったが、それに大きくくいこんで、7時15分前、ついに会員のなかにも「今日だけは見合わせよう」との声が出た。「明日1時限(8時半)より総会を行う。校長には今夜帰ってもらう」ことを確認したうえで、再度体育館で総会を続行、散会したのは7時55分であった。

17日は朝から総会。朝7時から開かれた職員会の報告があり、「職員もともに行進する」と報告された。万雷の拍手。学校側は「政治デモにならぬように。プラカードは昨日の総会の決定どおり(本部で5本に統一)に従う。授業は通常どおり行う」ことを提案した。

総会終了後、すぐ授業。その日はみないつも以上に緊張して授業を受けたようだった。放課後、会長の諸注意の後、校庭を出発。末広から並木通り、湖明館通りを経て中浜町・ガード・駅前、そして校庭までを、沈黙を守り、整然と行進し、1時間半かかって5時ごろ校庭に到着後、校歌を歌って解散した。

行進の後、疲れた身体と心を、にわかカンパの“バラズミ”で癒しているときに、学友会顧問以外の先生方も本部室に顔を出し(思うに敬意を表しに来たようだった)、和やかに雑談していった。あのときの生徒と先生の雰囲気・笑顔は今も



校庭を出発する生徒たち

気持ちよく思い出せる。あのころの先生と生徒は、廊下で、研究室で、教室で議論を交していたものだが、対立があっても通じ合うものがあった。先生方の態度は立派であり、生徒もよく冷静に判断し、行動したと思う。

しかし、自然承認の日6月19日はやってきた。虚脱感が漂い始めた。清陵祭は盛り上がったが、秋になって、気持ちの高揚の後に宿酔がやってきて、生活に乱れが生じ、心ある先生から注意を受けることもあった。

私は総会での多事争論を楽しんだ。新聞委員会に所属していたので、できるかぎり記録を正確に残そうと心して議論を聞いていた。しかし、議論は錯綜し、フォローするのは容易ではなかった。

私は当時、丸山眞男の意見が最も正鵠を得ていると思っていたので、安保問題の過程でマスコミの論調の変化に違和感をもった。マスコミ関係への関心が薄れ、もっと手近な、相手の顔が見える、いわば松下村塾方式で社会の問題を考えていこうと思うようになった。その意味で安保の日々は私にとってその後の生き方に大きな影響を与えた。

行進に至るまでのさまざまな意見のやり取りのなかに、「自由の気風は唯多事争論の中にあり」とした福沢諭吉の言葉を思い出させる清陵の自由・自治というものが現れていた、あのとき清陵で学んだことを誇りに思っている。

(諏訪二葉高校教諭)

EPSON

地域づくりのパートナー

諏訪信用金庫

会長理事 山岡利平(28回)

理事長 宮坂久臣(49回)

本店 長野県岡谷市郷田2丁目1番8号

孤立無援 それでも私は安保賛成

黒河内 靖 (65回)

1960年の安保反対「騒動」と諏訪清陵について既に2回も地元新聞紙上で触れた(南信日日新聞1989.10.20、岡谷市市民新聞1995.3.29)。今回も当時2年生だった私の心境を思い出して書いておきたい。

あれから40年近く経過した今頃になって会う同窓生から「学校全体も日本国中も“安保反対 岸を倒せ”という圧倒的雰囲気の時、お前はよくも唯ひとりで“安保賛成 反共保守”を談論会で高言したものだ。強い心臓だな」と言われることがある。孤高の勇気を誉めてくれたのか、「図々しい自己顕示」への皮肉なのかは知らないが、往時の私の少数意見を記憶してくれたのは嬉しい。私自身も未熟だった高校2年生のあの頃が今でも鮮烈に思い出されてならない。なぜ孤立無援で突っ張ったのか正直に語ろうと思う。

確かに少数意見どころか唯ひとり孤立した安保賛成だった。戦前以来、左翼的伝統の清陵で、社会部だけは「赤旗」などを読み多少は理論武装していたが、他の生徒大多数には自分自身の意見も十分な基礎知識も無かったようである。

高校もまた現代大衆社会の縮図であった。「意見なし中立」というノンポリ大多数は、少数精鋭の戦闘的組織により容易に支配されてムードに流され、他人をも押し流しつつ抵抗し難い時流と雰囲気を我知らず形成してしまうものである。歴史を見ればナチスの政権獲得もロシアの共産革命も同じ大衆心理の政治力学で呆気なく全体主義独裁に至ったのである。

当時の清陵でも内心では「東西冷戦で日本は西側に立つべきだ。日米同盟と自衛隊は必要だ」と思う人がいたかもしれない。しかし学校全体が圧倒的に左翼主導の雰囲気だった。だから少数意見を高言し談論会で孤立し野次られる覚悟で「安保賛成 反共保守の黒河内」に味方してくれる人は一人も無かった。

千万人と雖も……私が悲壮な覚悟だったわけではない。何より安心なのは流石に清陵生の知性と良識ゆえに物理的暴力の恐怖だけは無かったからである。「反動・右翼・ブルジョア……」という左翼特有の野卑な罵倒を浴びるだけで済んだ。

殴られないという保証さえあれば怖くない。孤立・野次・罵倒・嫉妬に耐えて言いたいだけのことを言い切る勇氣、というよりも意地だけが必要だった。幼時から中年の今に至る

まで、思うことを思ったとおり言い切らなければ気が済まない性格である。損だと知っても敵を作っても、私は我慢できずに言い放ってしまう。当時もそうだった。先生も家族も心配してくれたが「怪我をするわけではないから」と安保賛成を高言し続けたのである。

振り返れば当時は左翼反体制または空想的非武装平和主義者から批判を受けたが、40年後の今日では私たちの安保肯定論、自主防衛論は今や大多数の国民世論(もちろん政界の主流)になってしまった。まるで狐ツキが落ちたようだ。彼等こそ今では少数派で孤立している。だから「何故あの当時は？」と不思議になってしまう。

1960年から僅か15年前に大東亜戦争敗北の反動で左傾した戦後日本。東西冷戦のなかで思想界・言論界は反米左派の優位が続きマスコミも教育も左翼偏向という環境に育ったのが我々世代の高校生だった。信州諏訪で特にその傾向は強かった。選挙が迫ると「岡谷の共産党弁護士を国会に送り出したい」と公然と生徒に言う教師がいたのである。

しかし、幸いにも私には左翼病感染を防ぐ強い免疫が幼少から与えられていた。我が家では思想問題に一見識ある祖父(明治35年の諏訪中学校入学、早稲田に学びキリスト教社会主義者・安部磯雄教授の門下生。死ぬまで読書家だった)が小学生の私に早熟な思想教育をしてくれた。例えば、北が圧倒的に奇襲した朝鮮戦争は日本に迫る共産主義の脅威を子供にも実感させた。来訪したシベリア抑留帰還者の辛い思い出。スターリンの「血の粛清」を聞けば少年にも共産主義・革命独裁の恐怖がよくわかった。壁の構築以前にもベルリンの東から西へ、東欧から西欧へ、北朝鮮から韓国へ……赤い国の恐怖と貧困から逃れて亡命する人々の群れ……、新聞さえ読めれば中学生の目にも東西冷戦・体制比較に於ける共産主義の敗北と自由主義の勝利は明白だった。

終戦直後に高遠町長だった祖父を訪ねる警察幹部は各地で頻発した破壊活動・公安事件(六全協以前の火炎ビン闘争、白鳥事件……)を語り、少年の私は同じ部屋で大人の怖い話を黙って聞いていた。こうして私は幼い頃から反共保守の思想的正当性を固く信じていたのである。

ただし、祖父は孫の私に強調した。「貧しければ赤くなる

カラリオは、キレイになるほど速くなる。

6pl インクドット&

(ピコリットル)

マルチサイズドットテクノロジー

しかも クラス最速*

スーパーフォト・マッシュジェットプリンタ

PHOTO-MIXJET
Super Colorio
カラリオ・フリンタ

PM-770C

標準価格 ¥59,800 (税別/ケーブル別売)



EPSON



カラーで発想、エプソンです。

*1999年2月10日現在、標準価格5万円台のカラープリンタでのフルカラー写真データにおける、各社専用紙出力による比較。

セイコーエプソン株式会社

〒392-8502 長野県諏訪市大和三丁目3番5号 ☎0266-52-3131(代表)

のが人情の自然だ。いずれ庶民大衆が豊かになれば世相は落ち着き日本は安定するから心配するな。お前も成人したら真面目に働き黒字を出して、忠実な社員に人並み以上の給料を払う良心的な経営者になれ」。

既に私は中小企業主という自己の階級的利害（存在は意識を決定する？）を超越して、「労働者・農民を含む民衆全体にとって共産主義は悲劇だ。東西冷戦で日本が西側陣営に立つのは当然。反共保守は日本の国是。まして侵略されても無抵抗の非武装中立論など余りに女々しく卑怯で大の男が口にするのも恥だ」と確信して保守的な山峡の城下町・高遠から諏訪清陵に進学したのである。だから社会主義の正義、資本主義の悪徳ばかり教える日教組教育に感化された級友が「どうせお前は社長の子だから…」と嫉妬の劣情を含む意地悪を言っても全く動揺しなくなっていた。

それにしても入学直後から諏訪清陵は左翼の校風だと思った。だから私も覚悟を決めた。たとえ孤立してでも多数に逆らい信ずるところは言い切ろうと思いつつながら2年生で60年安保騒動を迎えたのである。

最後まで孤立無援だったが今も思い出して悔いはない。言いたいことはすべて言い切ったからである。

そして40年後の今日、朝鮮半島周辺の緊張ゆえに国民の防衛意識は向上し自衛隊は国民に支持され世界各地に日の丸PKO部隊が活躍している。今の私は自衛隊を支援する経営者団体「長野県防衛協会」の副会長である。

目を世界に転ずれば、少年だった私の願いどおり、冷戦40年後に共産主義は惨敗しソビエト連邦は崩壊した。中国でも狂気の文化大革命は否定され今では資本主義経済に限りなく接近している。進歩的文化人・心情左派の似非知識人も急速に減り報道・出版・教育の左翼偏向は次第に改善されてきた。社会主義幻想と平和主義幻想…二つの呪縛から脱却した時、初めて日本民族の「悪しき戦後」は終わり「真実の日本」が蘇り「普通の主権国家」になるであろう。

清陵卒業後の私の軌跡を最後に書けば紙数が尽きる。

一貫して左翼的時流に逆らいたい私は、昭和日本の論壇で勇敢にマルクス主義批判を続け保守的自由主義の旗手とされた小泉信三博士（当時の皇太子殿下御教育参与）を深く尊敬し、迷うことな

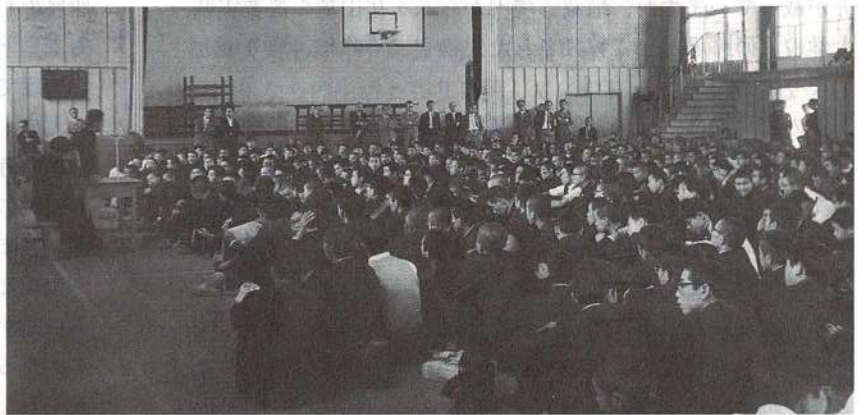
く先生の慶応義塾へ進学した。既に老境の名誉教授ゆえ僅か数回だけ言葉を交わす光栄に浴した。左傾した戦後論壇を大きく中道まで押し返した名著「共産主義批判の常識」は50年後の今でも文庫本で読まれ、ソビエト崩壊の予言は正確に的中した。

私も大学院修士課程で選んだライフワーク「東欧現代史研究」にこだわりながら帰郷、酒造業経営の傍らゴルフ・カラオケ・麻雀・外車・浮気のすべてに無縁。仕事以外は読書三昧・質実剛健の野暮天生活を続けつつ下記の国々を単身で一巡した（…中国、ロシア、ウクライナ、エストニア、ラトビア、リトアニア、ポーランド、スロバキア、チェコ、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア、クロアチア、セルビア、東ドイツ）。すべて見終わった直後に東側共産圏は崩壊した。こうして私はマルクス・レーニン主義の東側世界最後の姿をこの目で見たのである。

この国々に残るものは多くの悲劇だけを為して消えていった共産主義・革命独裁の墓標だけである。緊張する朝鮮半島・台湾海峡を除けば東西冷戦は終わった。

私も55歳になった。思えば少年の頃から「右と左、赤と白」、こんなことばかり考えて半生を送ってしまったような気がする。今更しかたがないけれど、その原点は諏訪清陵での安保論議・体制論争だった。四面楚歌の当時「ここでは孤立したが今に見ろ。必ず全世界で反共保守・西側陣営が勝つ。悔しかったら左翼分子以上に左翼思想を研究して論破・克服しよう」と自分を励ました意地と執念は「赤い清陵」が私に与えてくれた皮肉な恩恵なのである。

（仙醸社長・ロシア東欧学会会員・長野県防衛協会副会長）



当時の総会風景

株式会社白鳳ビルディング

本社／新宿区新宿5-17-11 TEL 03(3200)2011

第2白鳳ビル／豊島区東池袋4-10-2

第3白鳳ビル／新宿区新宿6-8-8

第4白鳳ビル／渋谷区代々木2-23-1

第5白鳳ビル／中央区日本橋室町1-13-5

第6白鳳ビル／千代田区西神田2-2-13

第7白鳳ビル／文京区白山5-33-11

第8白鳳ビル／新宿区百人町3-9-6

ハクホー八王子パーキング／ハクホー浦和パーキング

ハクホー柏パーキング

諏訪大社前観光ドライブイン

西茅野ゴルフ練習場

株式会社白鳳ビルディング代表取締役社長

財団法人日本血液協会理事長

新宿区新宿5-17-11 TEL 03(3208)6270

厚生中央医院

新宿区百人町3-16-6 TEL 03(3369)0880

東北大学航空工力精密同窓会名誉会長

東北大学機械系同窓会名誉会長

社団法人国民懇話会前理事長

医学博士 工学博士

宮坂五一郎 (36回)



昨年を振り返って

同窓会長 宮坂 久 臣

同窓生の皆さん、ますます、ご清栄のことと拝察申しあげますとともに、平素、同窓会に特段のご理解、ご支援をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

同窓会報は、年 1 回、1 万 5 千人に郵送しておりますが、ここに、この 1 年間の同窓会の主な活動をご報告して、学窓を思うひとときの話題にさせていただければ幸いに存じます。

去年、諏訪の地域は諏訪大社から小宮までの御柱祭で沸きに沸きました。厳しい経済不況下の御柱祭でしたが、「不景気を吹き飛ばせ」と猛烈な熱気に包まれまして、上社も下社も“歴史的”な人出を記録しました。

わが同窓会では、初めての試みとして、上社と下社のいずれも『里曳き』の 2 日間、テント張りの御宿を設け、同窓生はじめ地域の皆さんに気軽に立ち寄っていただきました。酒、ビールを酌み交わしながらの歓談、和気あいの交流は、何ものにも代えがたい爽快感を満喫させてくれました。今回の御柱祭でも、同様の御宿が設営されると思いますので、今から皆さんに「ふるってのご利用を」をお願いしておきたいと思っています。

寄宿舍『道志社』につきましては、前号の会報に詳細な紹介が載っていますが、地藏寺境内から八ヶ岳山麓の農業実践大学校に研修場として移設された建物も、一昨年、取り壊しになりました。

その跡地には、私の拙筆で『道志社跡』と刻んだ記念碑が建ち、去年秋の「八ヶ岳中央農業実践大学校創立 60 周年記念式典」で除幕が行われました。同窓会から、私、井上監事、小口事務局長をはじめ同窓生多数が出席して、大学校側の温かいご配慮に感謝を申しあげた次第です。

一方、地藏寺境内に建つ『道志社記念碑』につきましては、一昨年暮れに立派に改修されました。これを機会に同窓会として、毎年桜のころに例祭を実施することになり、つい先日、今年の例祭を行って、諏中・清陵の『自治精神』の礎を築いた先輩たちの遺徳を偲んだところであります。

ところで、母校の野球部は、3 年前の夏の長野大会決勝進出に続いて、去年は準決勝まで進みました。私情をご寛容いただけるなら「甲子園がぐっと近くなった。今年こそ何とか」と期待感でいっぱいであります。また、文化関係も古典ギターや将棋の全国大会で上位の成績をおさめるなど、個性を発揮した活躍を見せています。

同窓会では、2 年前発足の『クラブ活動同窓会後援会』を通じて費用面の支援を行っておりますが、在校生のますますの活躍を期すため、同窓生の皆さんの『後援会』入会に一層のご協力をお願いいたします。

なお、去年の同窓会総会で、私をはじめ全役員が再任されました。従来以上のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



温故知新

学校長 窪田 孝 美

昨年は、各地区の同窓会にお招きいただきまして誠にありがとうございました。どの会も特徴があり、校風が育んだ教育の力に感動いたしました。会を締める校歌であります、第一校歌の作詞者伊藤長七が府立五中の創立に情熱を傾けたことを、都立小石川高校の 70 年誌—立志・開拓・創作—で知りました。今も、都立小石川高校を訪ねると玄関で創立者伊藤長七の胸像が出迎えてくれます。生徒の将来を見通した教育改革の決断など業績の一端を紹介し、教育の原点を見失いがちな私の戒めとしたいと思います。

●伊藤長七は本校の前身育英会の出身で、熱血漢で、感激家で、若いときそれがわざわざいして、郷里にいられず何度も挫折した。しかし、挫折に屈せず東京に出て、高等師範に入り、高師付属中の教諭になると同時に、「朝日新聞」に 49 回にわたり「現代教育観」を連載し注目を浴び、大正 8 年 43 歳で府立五中の初代校長となった。

●大先輩小平権一の息子である小平邦彦は、文化勲章・フィールズ章を受賞した日本を代表する数学者で、「五中は、校長伊藤長七の『教育とは人の子を人たらしめるように苦心することである。天分を伸び伸び長大せしめ、その心身の発達伸展のため、あらゆるよい条件を与えてやろうという努力である』という考えに基づいて創立された中学校で、実に自由な校風であった」と述べている。また、生徒を紳士として、一人の人格として考えるようにするため、服装は自由であったが、背広にネクタイという標準服を定めた。

●校歌の作詞もし「豊葦原の中原と拓きましけん日本武……」から始まり、学校要覧の最初に載っている。格調高く、本校の校歌と似ているが、今の生徒には難しいとのこと。

●校是が「立志・開拓・創作」で、生徒に「校風につくられる人たるなかれ 校風をつくるの人たれ 時勢につくられる人たるなかれ 時勢をつくるの人たれ」と呼びかけたそうであるが、本校の「自ら反りみて…」と合い通ずるものがある。

●教員に、優秀な人材を招聘した。例えば、岩崎民平（後の東京外語大学長、英語）など。また英国人教師を招きキングズイングリッシュを学ばせた。地久節には、女性の講師を招き性教育等の講演をさせたり、旧制中学校としては全国初の女性教師を 2 名採用するなど、その先進性と実行力は流石である。

●理科教育が五中の特色として、理科教育の充実を図った。普通は 3 年で学ぶ物理・化学を 1 年から取り入れ、様々な実験が行われた。また、天文・気象・化学・生物といった研究会をつくり、生徒の好奇心で課題を選び、先輩に教わりながら自由な研究活動を保証。これは、本校の科学会に相当するものである。（都立小石川高校の 70 年誌などを使わせていただきました。また、敬称は略させていただきました。）

平成10年度 定期総会の記

平成10年度の諏訪清陵高校同窓会定期総会は6月21日(日)に諏訪シティーホテル成田屋にて午後1時より開催されました。開催に際しての幹事は65回生が担当しました。

小松誠君(65回)の司会により、寺島敏郎副会長・東京清陵会会長(50回)が開会を宣言し、物故者に黙祷を捧げました。つづいて宮坂久臣会長(49回)から同窓会活動に触れながら、また、新任の窪田孝美学校長から学校の近況を含めたご挨拶をいただきました。

この日は来賓に、開校60周年の記念年にあたる八ヶ岳農業実践大学校井上忠徳校長と、長野冬季オリンピック



挨拶をする宮坂同窓会長

ックで活躍した上原三枝さん(93回)をお迎えしました。農業実践大学校にはかつて諏中の寄宿舎であった道志社社屋が昭和12年に移築され、諏中自治の精神を受け継ぎながら、次代の農業を担う若者が集い、建学の志に燃える学びの日々がそこで重ねられ今日に至っており、井上校長はその歴史を振り返りながら現在の学校の様子などを話されました。また、上原さんからは、オリンピック出場に際して同窓会会員より

の温かい援助と声援に対して感謝の言葉がありました。

ひきつづき議事に移り、議長には宮坂祐次諏訪支部長(51回)を選出し、平成9年度の会務・



感謝の挨拶をする三原三枝さん

会計報告、クラブ活動同窓会後援会の会計報告、平成10年度の事業計画と予算を審議可決しました。これと併せて、平成10年度は諏訪大社上社・下社の御柱祭開催年にもあたり、すでに行われた両御柱祭に同窓会としてお宿を設営しましたので、その報告が有賀裕副会長(50回)からなされました。

また今回は特別に、平成7年の創立100周年記念事業の一環として中国博浪沙公園に植えた桜と記念碑について、その後、97年に再度中国を訪れ視察された山崎壮一氏(51回)より報告がありました。氏の「桜は枯れ、石碑の文字も風化した」との言葉に、今後、対策委員会を設けて検討していく方針を同窓会として決定しました。

その後、各支部長の紹介の後、次年度幹事学年の66回生が壇上に上がり、来年の総会にあたっての決意を表明しました。最後に淵上良子副会長(56回)の閉会の挨拶で総会を閉じました。

ひきつづき開かれた記念講演では、花王株式会社研究開発



「香りの秘密」を語る中島基貴講師

部門研究主幹の中島基貴氏(65回)が「香りの秘密」と題して、私たちの生活と香りに関して、OHP画面を用いながら香料サンプルを会場に回して講演しました。「人生は、香りとは切れない絆で結ばれている」ことを示唆してくれました。余談ではありますが、出席者全員に花王製品の歯磨きセットの提供もいただきました。

懇親会には、明治45年に入学された古村敏章氏(17回)を最長老として100名ほどが出席し、旧交を温めました。

美酒を酌み交わすうちにやがて日も傾くころ、いつもの日本一長い校歌を斉唱し、万歳三唱により散会となりました。

(65回 藤森輝男記)



割烹 仙岳 シャブシャブ
ふぐ料理 天ぷら

代表 小口達夫
小口慶一郎(84回)
小野勝子(87回)

諏訪市湖岸通り5-17-6
TEL 0266(58)3515

ご子弟の免許取得には

(東京方面の方は20日間で卒業できる

合宿教習で)

長野県公安委員会指定

茅野自動車学校

茅野市宮川5299番地 ☎ 0266-72-4111

代表取締役 矢崎 斉 男(51回)

平成 10 年度 会 務 報 告

平成10年

4.6 諏訪清陵高等学校第104回生入学式

午前10:00 母校小体育館

宮坂会長祝辞

新入生286名（男子173名、女子113名）

4.16 下諏訪支部総会

校長・会長出席

ぎん月 午後6:00

4.17 御柱お宿運営実行委員会

会長他14名

午後6:00 諏訪湖インあるが

4.20 道志社先輩慰霊法要

会長他14名

午前11:00 地藏寺

4.29 御柱お宿第2回実行委員会

副会長他 11名

午後6:00 諏訪湖インあるが

5.3～5 上社御柱里曳きお宿

午前8:00～午後5:00

高部交差点付近

5.9～11 下社御柱里曳きお宿

午前8:00～午後5:00

諏訪信用金庫下諏訪支店前

5.13 財団諏訪清陵会・同窓会会計監査

午後3:30 清陵会館

5.24 御柱運営実行委員会反省会

午後6:00 諏訪湖インあるが

45名

5.30 財団諏訪清陵会理事会

午前11:00 母校応接室

同窓会常任幹事会

午後1:30 清陵会館

幹事会

午後3:30 清陵会館大広間

平成10年度定期総会提出議案審議

新旧校長事務長歓送迎会

午後5:30 浜の湯

48名

5.31 上伊那支部総会

校長・副会長出席

午後4:00 辰野パークホテル

6.4 会報24号発行・発送

藤森委員長ほか65回生編集

6.21 平成10年度諏訪清陵高校同窓会定期総会

午後1:00 シティホテル成田屋

平成9年度会務・一般特別会計決算報告および平成10年度事業計画・会計予算承認、御柱お宿運営会計中間報告、役員改選（全役員再選）

記念講演 中島基貴氏（65回）
「香りの秘密」

懇親会 4:30 同所

6.28 松下前校長文部大臣教育者表彰受賞祝賀会

会長他出席

午後2:00 浜の湯

7.17 原支部総会

校長・副会長出席

午後2:00 原村中央公民館

7.21 総会および会報編集担当幹事（65回生）反省会

午後6:00 古畑

8.22 来年度当番幹事（66回生）担当発足会

午後6:00 開花楼

10.3 ハヶ岳中央農業実践大学校開校60周年記念式典ならびに道志社跡碑（宮坂会長揮毫）除幕式

午前10:00 会長他参列

10.16 東京支部総会

校長・会長・副会長出席

午後6:00 虎ノ門パストラル

11.12 諏訪支部総会

校長・会長他出席

午後6:00 シティホテル成田屋

11.14 松本支部総会

校長・副会長出席

午後4:00 信州会館

平成11年

1.25 地元支部長・常任幹事会

副会長他出席

午後6:00 諏訪湖インあるが
博浪沙公園の碑・桜管理維持について

1.31 関西支部総会

校長・副会長2名出席

午前11:00 阪神グリーンルーム

2.6 東海支部総会

校長・副会長出席

午後4:30

ホテルアソシア名古屋ターミナル

2.26 長野支部総会

校長・副会長出席

午後6:00 山王共済会館

3.8 諏訪清陵高等学校第101回生卒業式

午前10:00 母校体育館

宮坂会長祝辞

卒業生272名（男子168名、女子104名）

3.15 富士見支部総会

校長・会長出席

午後6:30 油屋

3.24 岡谷支部総会

校長・会長他出席

午後6:30 ホテル岡谷

下諏訪支部総会

教頭・副会長出席

午後6:00 ぎん月

3.25 母校転退職職員送別会

副会長出席

午後6:00 ホテル紅や

水 晶 時 計

株式会社 マカホ

長野県茅野市宮川4900 ☎(0266)72-6111(代)

アメリカ工場……ロスアンゼルス

バンコク工場……タイ国バンバイン工業団地

自動組立機の

マイクロエレクトロニクス株式会社

長野県茅野市金澤5387-1 ☎(0266)72-6551(代)

平成 10 年度 同窓会一般会計決算報告

平成 10 年 4 月 1 日～平成 11 年 3 月 31 日
収入総額 15,333,186 円
支出総額 10,581,379 円
差引残高 4,751,807 円 (平成 11 年度へ繰越)

収入の部

科 目	予算額	決算額	収入増減(▲)額	備 考
前年度繰越金	6,151,610	6,151,610	0	
入 会 金	1,430,000	1,425,000	▲5,000	5,000×285人
終 身 会 費	6,720,000	7,120,000	400,000	20,000×285人 未納会員138人分
基本財産収入	184,000	169,093	▲14,907	大口定期預金利息
繰 入 金	0	0	0	
雑 収 入	750,000	467,483	▲282,517	普通預金利息、名簿、CD等売上金
合 計	15,235,610	15,333,186	97,576	

支出の部

科 目	予算額	決算額	収支増減(▲)額	備 考
会 議 費	300,000	381,585	▲81,585	常任幹事会・幹事会他
総 会 費	400,000	362,750	37,250	定期総会費(会費5,000円徴収)
旅 費	600,000	489,090	110,910	役員出張旅費
人 件 費	720,000	720,000	0	書記給与
需 要 費	300,000	295,016	4,984	リース料、新聞代、消耗品他
役 務 費	500,000	448,406	51,594	電話料、郵便料、電報料
慶 弔 費	900,000	973,470	▲73,470	支部総会祝儀、饗別他
記 念 品 費	220,000	191,100	28,900	卒業生記念品(印鑑)代
繰 出 金	4,350,000	4,350,000	0	会報特別会計(180)、 叡清陵会(250)、 会館維持(5)〈単位:万円〉
基金繰入金	3,500,000	0	3,500,000	同窓会基金積立
御柱祭特別費	2,000,000	2,369,962	▲369,962	御宿(上社・下社)費
雑 費	20,000	0	20,000	
予 備 費	1,425,610	0	1,425,610	
合 計	15,235,610	10,581,379	4,654,231	

平成 10 年度 同窓会報特別会計決算報告
(平成 10 年 4 月 1 日～11 年 3 月 31 日)

収 入 額 2,564,026 円
(一般会計よりの繰入金、広告収入等)
支 出 額 2,406,390 円
(会報 24 号 16,500 部印刷費、郵送料等)
収支残高 157,636 円 (次年度へ繰り越し)

平成 10 年度 清陵会館維持会計決算報告
(平成 10 年 4 月 1 日～11 年 3 月 31 日)

収 入 額 519,355 円
(繰越金、一般会計よりの繰入金等)
支 出 額 22,680 円
(スリッパ代)
差引残高 496,675 円 (次年度へ繰り越し)

諏訪清陵高校同窓会基本財産目録

基本財産 60,000,000 円

内訳 大口定期預金
諏訪信用金庫 40,000,000 円
八十二銀行 20,000,000 円

平成 11 年度 同窓会一般会計予算

収入総額 16,110,807 円
支出総額 16,110,807 円
差引残高 0 円

収入の部

科 目	予算額	前年度予算額	収入増減(▲)額	備 考
前年度繰越金	4,751,807	6,151,610	▲1,399,803	
入 会 金	1,400,000	1,430,000	▲30,000	5,000×280人(新入学生)
終 身 会 費	6,600,000	6,720,000	▲120,000	20,000×280人 未納会員 100 人分
基本財産収入	94,000	184,000	▲90,000	大口定期預金利息
繰 入 金	3,000,000	0	3,000,000	クラブ活動後援会会計より
雑 収 入	265,000	750,000	▲485,000	預金利息、名簿・百年史、CD等売上金
合 計	16,110,807	15,235,610	875,197	

支出の部

科 目	予算額	前年度予算額	増減(▲)額	備 考
会 議 費	300,000	300,000	0	常任幹事会・幹事会他
総 会 費	400,000	400,000	0	定期総会費(会費5,000円徴収)
旅 費	600,000	600,000	0	役員出張旅費他
人 件 費	720,000	720,000	0	書記給与
需 要 費	300,000	300,000	0	リース料、新聞代、消耗品
役 務 費	450,000	500,000	▲50,000	電話料、郵便料、電報料
慶 弔 費	950,000	900,000	50,000	支部総会祝儀、饗別、弔電他
記 念 品 費	220,000	220,000	0	卒業生記念品(印鑑)代
繰 出 金	4,350,000	4,350,000	0	会報特別会計(180)、 (財)清陵会(250)、 会館維持(5)〈単位:万円〉
基金繰入金	3,000,000	3,500,000	▲500,000	同窓会基金積立
御柱祭特別費	0	2,000,000	▲2,000,000	
備 品 費	250,000	0	250,000	パソコン更新費
雑 費	0	20,000	▲20,000	
予 備 費	4,570,807	1,425,610	3,145,197	
合 計	16,110,807	15,235,610	875,197	

諏訪清陵高校OB・OG「諏訪湖一周マラソン」のご案内

本年も恒例の湖周マラソンを下記により、母校の諸君に加えてもらい実施致します。多数の皆さんの参加と応援を期待しご案内とします。

1. 日 時 10月20日(水) 女子8時40分、男子9時
2. コース (予定) スタート・ゴール 湖畔石彫公園 約18Km
3. 受 付 湖畔石彫公園のスタート・ゴール地点 午前7時30分よりゼッケン受取り後スタート地点へ。終了後懇親会。
4. 参加費 3000円
5. その他 健康診断もお忘れなく。雨天の場合受付時に判断。

清陵湖周マラソンOB会

会 長 井上彦次 (42回) 事務局長 牛山 孝 (59回)
問合先 原 英充 (65回 Tel 0266-58-3547)
会 計 唐沢千明 (76回)

平成8年よりコースが変わりました。諏訪湖周辺のジョギングロードを走る平坦な走りやすいコースです(牛マサ坂を通ります)。

病 院 田 中 ク リ ニ ッ ク

院 長 (外科・麻酔科)
副院長 (内科・小児科)

田 中 正 利 (第52回)
田 中 マ キ 子

諏訪市元町18番11号

☎ (0266) 52-2343

諏訪清陵高校クラブ活動同窓会後援会会計報告

平成9年度に発足しました標記の後援会には、皆さんのご理解とご援助を頂き、初年度は1,012人の方々が入会して下さいました。昨10年度には新たに355人の方が入会・会費の納入をして下さり、後輩たちのクラブ活動に随分と援助してあげることができました。10年度に新たに会費を納入して下さい下さった方々のお名前は次頁に掲載させて頂きました。どうも有難うございました。

本紙「学校だより」にありますように、後輩たちの活動は近年ますます活発になり、遠征費等の負担も増大しております。清陵の名を負って頑張っている彼ら彼女らに、少しでも支援できればという主旨で、PTA・学友会とともに後援活動をしているわけでありです。まだご入会されていない方には郵便振替用紙を同封しましたので、どうか振るってご加入下さいますようお願いいたします。(もし、既に会費をご送金下さったのに、郵便振替用紙が同封されておりましたら、当方の間違いですので、ご面倒でもご一報頂きたいと思ひます)

なお昨年度の3者(PTA・同窓会・学友会)の拠出金とその使途は、学校のクラブ後援会会計報告として下に掲載致しました。

諏訪清陵高校クラブ活動同総会後援会会計決算報告

平成10年4月1日～平成11年3月31日

収入総額 7,735,709 円
支出総額 6,043,575 円
差引残額 1,692,134 円 (平成11年度へ繰越)

収入の部			支出の部			(単位: 円)
科 目	収入 済 額	備 考	科 目	支出 済 額	備 考	
繰越金	1,120,140	前年度より	拠出金	2,350,000	学校後援会へ	
会 費	3,598,830	363名分	資金繰出	3,650,000	定期預金	
繰入金	3,000,000	定期取崩し	需要費	43,575	振替用紙印刷代	
雑収入	16,739	預金利息				
合 計	7,735,709		合 計	6,043,575		

諏訪清陵高校クラブ活動同総会後援会会計定期預金

平成11年3月31日現在

(単位: 円)

種 類	預 入 先	金 額	利率	期 間	満 期 日
普通定期	諏訪信用金庫	6,000,000	0.180%	12ヶ月	平成12. 3. 31
〃	〃	3,000,000	〃	〃	〃
〃	〃	650,000	0.150	〃	〃
合 計		9,650,000			

平成10年度 クラブ活動後援会(学校)会計収入・支出状況

収入総額 10,383,326 円

支出総額 9,289,892 円

差引残額 1,093,434 円

収入の部

科 目	予算額	補正額	予算現額	収入済額	比較増減	備 考
繰 入 金	7,200,000	0	7,200,000	7,200,000	0	PTA 385万円 同窓会 235万円 学友会 100万円
県等補助金	843,000	0	843,000	1,225,723	382,723	
雑 収 入	940	0	940	1,543	603	
繰 越 金	1,956,060	0	1,956,060	1,956,060	0	
合 計	10,000,000	0	10,000,000	10,383,326	383,326	

支出の部

科 目	予算額	流用額	予算現額	支出済額	比較増減	備 考
事 務 費	30,000	0	30,000	0	30,000	
生徒遠征費	7,000,000	160,000	7,160,000	7,131,872	28,128	
大会参加料	1,200,000	0	1,200,000	975,460	224,540	
登 録 料	800,000	0	800,000	716,790	83,210	
施設使用料	500,000	0	500,000	465,770	34,230	
予 備 費	470,000	△160,000	310,000	0	310,000	
合 計	10,000,000	0	10,000,000	9,289,892	710,108	

クラブ後援会学年別会員数 H. 11. 3. 31現在会員数1364名

回生	人数	回生	人数	回生	人数	回生	人数	回生	人数	回生	人数
18	1	35	18	48	25	63	22	76	11	89	6
19	1	36	18	49	53	64	30	77	12	90	7
21	1	37	14	50	64	65	36	78	7	91	9
23	1	38	16	51	28	66	23	79	10	92	6
25	3	39	18	52	42	67	16	80	11	93	8
27	1	40	22	55		68	16	81	4	94	5
28	7	41	22	56	43	69	23	82	6	95	16
29	3	42	35	57	34	70	23	83	12	96	9
30	6	43	7	58	45	71	17	84	16	97	14
31	10	44	28	59	42	72	15	85	7	98	14
32	7	45	21	60	42	73	10	86	8	99	14
33	8	46	36	61	29	74	9	87	9	100	26
34	5	47	69	62	17	75	19	88	11	101	5



タケヤみそ

株式会社 竹 屋

本 社/諏訪市湖岸通り2-3-17 ☎(0266)52-4000
松本工場/松本市南松本2-16-22 ☎(0263)25-2552
ホームページ <http://www.sphere.ad.jp/takeya>

処方せん調剤 漢方薬

有限会社 二 葉 薬 局

井 上 彦 次 (42回)

浜 正 一 (70回)

井 上 優 (72回)

井 上 幸 彦 (84回)

〒392-0026 諏訪市大手1-3-2

TEL 0266-52-1242

FAX 0266-52-3460

クラブ後援会 平成10年度入会者

敬称省略させていただきました。

18回	古村 敏章	41回	野口 甫	49回	平林 章	58回	伊藤 隆	65回	河西 生	72回	茅野 益	87回	牛山 高
25回	古山 二	42回	林 飯		藤沢 沢		今井 江		笠原 金		中村 花	88回	福澤 あ
27回	吉川 誠		沢 東	50回	堀口 伊		黒西 大		金子 小		宮坂 今		小林 昌
28回	小尾 雄		小口 小		上條 小		上條 小		田中 沢	73回	窪田 春	89回	中村 喜
29回	宮坂 健		河西 小		関 雅		小松 小		田中 沢		窪田 春		今井 淳
30回	宮沢 伝		小林 小		名取 賢		堀田 中		平林 旗	74回	植松 和		黒岩 寛
31回	舘沢 俊		平山 健		波多 野	59回	堀田 牛		古畑 文		柳沢 秀	91回	島田 宏
	上原 武		宮崎 節		降幡 弘		牛山 直		御子 柴	75回	金尾 秀	92回	池田 宏
	小尾 六		両角 市		宮坂 力		牛山 良		宮坂 敬		吉川 富		今井 修
32回	林 美	43回	矢崎 三		宮坂 庸		奥野 二	66回	両原 小		田中 希	93回	笠原 健
	前小 文	44回	河西 健		宮坂 一		浜林 三		川口 東		松木 智		上原 理
33回	清水 愈		濱 隆		小松 秀		藤森 弘		北原 正	76回	小口 幸	94回	土屋 真
	伊藤 文	45回	舘沢 良	51回	宮坂 武		降旗 祐		小松 正		金子 清		新村 ゆ
	小口 正		佐野 怜		横川 公	60回	堀内 矢		小松 勝		小池 真	95回	阿部 泰
34回	佐伯 健		増澤 文	52回	笠原 哲		伊藤 和		高内 勝		中島 修	96回	柳澤 由
	柿澤 正		山田 章		小島 真		岩本 康		津金 秀	77回	五味 崇	97回	吉川 浩
35回	伊藤 延	46回	上原 好		田中 正		小口 富		新村 元		城口 智		小島 孝
	大宮 裕		五味 堯		三枝 健		河西 洋		松浦 喜		田添 珠	98回	仲田 祐
	金子 三		平林 稔	55回	矢崎 芳		笠原 裕		水岸 一		西谷 弘	99回	宮沢 康
36回	小松 和		藤原 昭		牛山 忠		加室 拓	67回	長島 紘		宮内 和		渡邊 啓
	高木 達		原 昭	56回	窪田 定		中野 勝		丸茂 三	78回	岡 裕		植松 小
	名川 方	47回	矢花 哲		小林 成		中村 俊	68回	秋山 利	79回	小口 久		金子 英
	降幡 利		井上 男		五味 成		原 俊		大和 一		津金 治	100回	青木 大
37回	松澤 平		今井 圭		酒井 敏		丸茂 敬		小林 史	80回	守屋 智		五味 岳
	飯島 重		塩沢 祐		神宮 剛	61回	太田 龍		古河 喜		小口 和		新村 志
38回	大和 千		浜 栄		高橋 昇		小口 智		水上 昌	81回	山村 弘		増澤 美
	荒木 隆		森 正		中村 哲	62回	清水 政		百瀬 昌	82回	鈴木 克		増澤 美
	北原 文	48回	伊藤 恒		丸山 忠		武井 裕	69回	大槻 明	83回	唐澤 敏		朝倉 宏
	立木 正		伊藤 芳	57回	村山 義		青木 孝		三井 清		後藤 泉	101回	清水 忍
	花岡 和		荻原 之		有賀 吉		永由 祥		吉江 弘		清水 新		小松 一
	平林 広		小口 五		大井 保	63回	宮坂 博		芳沢 喜	84回	宮坂 俊		高木 恵
39回	八幡 栄		河合 守		河西 乙		赤羽 根	70回	香山 喜		今井 昌		橋爪 穂
	河西 道		酒井 雅		薩摩 貞		池田 宏		長崎 元		今井 道		荒井 秀
	小林 義		関 保		正司 重	64回	藤森 登		波間 芳	85回	古厩 秀		小林 智
40回	北沢 実	49回	永由 喜		塚原 英		宮沢 英	71回	五味 公	86回	藤澤 和		小松 早
	中村 彦		両角 一		花岡 有		吉田 成		竹内 一	87回	藤森 裕		増澤 真
	花岡 三		青島 夫		浜 良		吉田 成		宮下 信		青木 清		計 355名
	舘沢 武		今井 豊		増沢 柳		清水 丸		吉池 正		今井 一		
	林 隆		高橋 健		渡辺 道		山岡 茂						
	宮坂 有		千野 光	58回	伊藤 茂								

注：前頁の決算報告書との人数の違いは、昨年にも続き本年度にも会費を納入下さった方がおいでのためです。

平成11年4月
リニューアルオープン致しました

政府登録国際観光旅館



取締役社長 山崎壯一(51回)

山崎淳子(56回)

取締役 山崎俊一(80回)

〒392-0027 諏訪市湖岸通り3-3-10

TEL0266(58)8000

MISUZU INDUSTRIES CORPORATION



追求する

メカトロニクスを

先進の



株式会社 ミスズ工業

本社・工場 〒392-0012 長野県諏訪市西宮3090 ☎(0266)52-6611(代)
箕輪工場 〒399-4601 上伊那郡箕輪町中箕輪1536 ☎(0265)79-8866(代)

支部活動報告

支部名 (会員数)	支部役員名・連絡先	平成10年度支部総会 日時・場所・参加者・内容	平成10年度活動内容	平成11年度活動計画
富士見 (岳陵会) (271名)	支部長/細川昭(46回) 副支部長/五味昭二(46回) 小林互(50回) 事務局/古屋真一(77回) 〒399-0211 富士町富士見 8270 ☎0266-62-6394(細川昭)	平成11年3月15日 油屋旅館(富士見町) 30名 ◇平成10年度事業・決算報告等 ◇役員改選(留任)	◇名簿の完成及び会員への配布 ◇役員会 ◇清陵富士見会(東京方面)との交流(平成10年5月30日八峯苑) ◇逝去会員の弔問(2名)	◇定期総会(平成12年3月予定) 油屋旅館 ◇清陵富士見会との交流 ◇研修視察(会員の声を聞いて) ◇その他必要事項
原 (90名) (村外在住の 特別会員150 名)	支部長/松沢宏昭(57回) 常任幹事/小林千展(79回) 〒391-0105 原村 8119-1 ☎0266-79-4615(小林千展)	平成10年7月18日 原村中央公民館 17名 ◇平成9年度事業・決算 ◇10年度事業計画・予算 ◇新役員の選出 ◇講演「21世紀をむかえる出版界」 講師 五味俊和(50回)	◇役員会(2回) ◇村広報誌を村外会員に配布 ◇逝去会員弔問(3名)	◇定期総会(平成11年5月5日・原村中央公民館) ◇講演会 ◇名簿の整備 ◇逝去会員弔問
茅 野	支部長/丸茂恵司(50回) 副支部長/矢崎斎男(51回) 事務局長/永澤俊是(52回) 〒391-0002 茅野市塚原1-3-20 茅野市商工会議所内 ☎0266-72-6181(永澤俊是)	平成11年6月開催予定 (例年2月開催を選挙等で延期)	◇上社御柱里曳き祭お宿 設営協力(5月3～5日 会員各位の御隣席に感謝します)	◇組織の強化 ◇講演会 ◇研修視察
諏 訪 (1,840名)	支部長/宮坂祐次(51回) 副支部長/飯田節夫(58回) 関敦子(67回) 会計/牛山孝(59回) 事務局長/茅 野嘉利(57回) 〒392-0023 諏訪市小和田南 10-9 ☎0266-52-6839(宮坂祐次)	平成10年11月13日 165名 諏訪シティホテル成田屋 ◇事業・会計報告 ◇組織強化 ◇講演会「センサーと私」講師 中村俊夫(66回)	◇清陵高野球部甲子園長 野大会応援 ◇諏訪支部端艇部OB会 (第9回マスターズレガ ッタ出場、第3位入賞・ 第11回ねりんピック 出場、第5位入賞)	◇定期総会(平成11年11月中旬 諏訪シティホテル成田屋予定) ◇講演会
下諏訪	支部長/三井章義(51回) 副支部長/有賀公雄(47回) 酒井敏夫(56回) 小口剛(59回) 会計/小口章夫(57 回) 〒393-0015 下諏訪町 3534 ☎0266-27-8003(三井章義)	平成11年3月24日 30名 ぎん月(下諏訪) ◇事業報告 ◇役員改選(全員再選)	◇御柱祭同窓会御宿設営 協力(平成10年5月9 ～11日) ◇役員会(平成11年3月 9日)	◇役員会(平成12年3月予定) ◇総会(平成12年3月予定)
岡 谷 (700名)	支部長/山岡正邦(48回) 副支部長/山岡利行(49回) 鮎沢茂登(59回) 宮坂照彦(60回) 顧問/林憲一(28 回) 山岡利平(28回) 〒394-8611 岡谷市郷田 2-18 諏訪信用金庫内 ☎0266-23-4567(守屋真)	平成11年3月24日 96名 ホテル岡谷 ◇事業・会計報告等	◇役員会(平成11年3月 4日・31名出席)	◇役員会(平成12年2月予定) ◇総会(平成12年3月予定)
上伊那 (276名)	支部長/矢島昭(46回) 常任幹事/木見尻康彦(49回) 伊藤隆一(58回) 林靖(62回) 勅使河原明英(66回) 事務局/加島範久(70回) 〒399-0426 辰野町宮本 4038 ☎0266-41-0664(矢島昭)	平成10年5月31日 45名 たつのパークホテル ◇事業・会計報告 ◇講演「長野冬季オリンピックと 今後の課題」講師 瀬木潔(62回)		◇定期総会 (平成11年5月30日・たつの パークホテル)
松 本 (381名)	支部長/守矢武久(56回) 常任幹事/林秀剛(58回) 朝倉周一(59回) 藤森邦秀(65回) 会計監査/千 代務(58回) 〒390-0827 松本市出川 3-5-28 ☎0263-26-1039(守矢武久)	平成10年11月14日 14名 信州会館 ◇会務・会計報告 ◇役員改選 ◇講演会「報道と人権」(松本サリ ン事件を中心に)講師 飯田正 孝(65回) 信濃毎日新聞社報道部 長	◇会員名簿の更新・発行	◇定期総会(平成11年11月の土 曜日 信州会館予定) ◇名簿の整備 ◇逝去会員への支部旗の貸出(希 望の場合)
長 野 (293名)	支部長/茅野實(52回) 副支部長/戸田正明(60回) 瀬木潔(62回) 〒380-0946 長野市平柴台178-2 ☎026-224-4377(矢崎幹明(71回))	平成11年2月26日 52名 山王共済会館 ◇事業・会計報告		◇定期総会
東 海 (145名)	支部長/小山良治(42回) 副支部長/竹村弘(44回) 武井久良(59回) 國雄(60回) 事務局/矢崎武 一(52回) 会計/小松久夫(59回) 顧問/藤森耕介 (40回) 山田晶(40回) 飯島宗一(41回) 錦見高弘 (42回) 〒460-0014 名古屋市中区富士見町 3-26-301 ☎052-321-3272(矢崎武一)	平成11年2月6日 36名 ホテルアソシア名古屋ターミナル ◇会計・活動報告・役員改選 ◇講演会「陶磁器あれこれ」 講師 有賀久人(44回)	◇総会欠席者のコメント を一覧表にして配布	◇新会員の勧誘(転住・転職者 の情報) ◇定期総会 平成12年2月5日(土)予定
東 京 (東京清陵会) (3,919名)	会長/寺島敏郎(50回) 副会長/林尚孝(52回) 測 上良子(56回) 事務局長/藤森宏一(63回) 事務 局次長/小野寿勇(58回) 祖父江宏三(64回) 金 子充宏(65回) 関東1都6県にお住まいで東京清陵会に未登録の 方は事務局までご連絡下さい。東京清陵会だより 第10号および総会通知をお送り致します。(年会 費600円) 〒120-0005 足立区綾瀬2-31-7 (株)小野包装気付 東京清陵会事務局 ☎03-5680-7633 FAX.03-5680-7665	平成10年10月16日 263名 虎ノ門パストラル(港区) ◇事業報告・会計報告 ◇事務局体制の変更(事務局移転・ 事務局長交代・事務局次長の新 設など) ◇伴奏校歌(カラオケ)による校 歌斉唱	◇「東京清陵会だより」第 9号の発行 ◇第4回女性の集い(1 月23日、31名出席)	◇第33回総会開催予定 (平成11年10月15日 アルカデ ィア市ヶ谷一私学会館) 会費8,000円 ☎03-3261-9921 当番66回、サブ67回 ◇「東京清陵会だより」第10号の 発行 ◇親睦ゴルフ大会 ◇第5回女性の集い
関 西 (294名)	支部長/河西計介(42回) 副支部長/小倉裕(45回) 小池俊二(49回) 藤森千弘(50回) 中山亮(50回) 酒井嘉也(51回) 杉村健(51回) 今井文人(52回) 監事/小林秀春(47回) 幹事代表/熊井巻夫(58回) 〒666-0129 川西市緑台7-3-15 ☎・FAX.0727-93-8668(吉沢啓介)	平成11年1月31日 75名 阪神グリーンルーム ◇事業・会計報告◇事業計画・会計予算 ◇特別講演「阪神時代の思い出とその後の 私の研究」一稿をなくすためにー 講師 翠川修(44回・京大名誉教授) ◇福引き	◇清陵同窓会関西支部会 報を創刊 第1号を発 行(9月18日) ◇分科会活動(ゴルフ2 回、歩こう会2回実施) ◇役員会 4回開催	◇会員名簿の発行 ◇支部会報第2号発行 ◇分科会の推進 ◇第3回支部総会(平成12年1 月30日(日) 阪神グリーンルー ム予定)

支 部 だより

独特の支部運営の幹事当番

【長野支部】

長野支部の平成10年度総会は11年2月26日、長野市の山王共済会館に会員50人あまりが集まって開かれた。

本部から有賀裕副会長、学校から窪田孝美学校長が出席。まず、茅野實支部長（52回・八十二銀行頭取）が、支部の会員が300人近くに増えたことに触れながら「会員数では大きく発展してきたが、この席には50人しか出席していない。諏訪人の気質が出ているなあ」と、冗談まじりに切り出し、



最後を締めくくった万歳三唱

「不景気や風邪を吹き飛ばすほどに、元気に飲もう」とあいさつした。

有賀副会長は、同窓会として昨年の諏訪大社御柱祭で「お宿」を2か所で開き、酒などを振る舞い、評判が良かったことを報告。窪田校長は学校の現況を説明し、OBに対し母校や後輩の生徒達の活動への支援、協力を求めている。

懇親会は、戸田正明副支部長（60回・長野県教育長）の乾杯の音頭でスタート。同じ地域で生活しながらも、久し振りに顔を合わせる会員同士が情報交換したり、昔話に花を咲かせたりと、大いに盛り上がった。

締めくくりは校歌斉唱。参加者達は夫々の思いを込めて声を張り上げ「東に高き八ヶ岳…」「ああ博浪の…」の歌詞が会場内に響きわたった。最後に山田章人氏（45回・朝日病院院長）の発声で万歳を三唱し、1年後の再会を約した。

また、幹事の引き継ぎを行い、10年度幹事の信濃毎日新聞社常務瀬木潔氏（62回）から、11年度幹事の長野県公営企業管理者飯沢清氏（63回）に支部旗が手渡された。長野支部は会員が比較的多い官庁や企業が1年ごとに持ち回りで幹事を担当し、運営している。（10年度幹事・矢崎幹明・71回記）

支 部 だより

活発な歩みにはずみをつける第2回総会

【関西支部】

平成9年11月に発足した関西支部は誕生からの日が浅く、まだ若い分、他の先輩支部より結束力を保ちながら、総会も盛り上がりを見せています。

第2回総会は、当初、平成10年10月18日に開催の予定でしたが、台風のため延期し、平成11年1月31日に開催しました。本部からご出席予定の宮坂会長ほかの皆さんに大変ご迷惑をおかけ致しました。

今回の特徴は、「福引き」と「講演会」を行ったことです。「福引き」の景品に、上諏訪温泉一泊招待を企画し、同期生



最高齢の北原正義氏（左）と小早信一氏（2人とも36回）による乾杯の発声

の関係からお願いして、「浜の湯」と「鷺の湯」に協賛して頂き、好評でした。その他、福袋（阪神百貨店・京阪百貨店）など全員に景品が当たるよう配慮

しました。

講演は、前頁の表の通り翠川修京大名誉教授（44回）により行われましたが、ここ20年ほど清陵から京都大学医学部に合格者がいないようで、ハッパをかけられました。窪田学校長もお見えになっておられましたので、学校へ戻られたところで、生徒への刺激に使っていただければと思います。

（事務局長・吉澤啓介・57回記）



校歌斉唱の音頭をとる

学年会 だより

個人的な72回生同期会

小島 実 (72回)

かりんとうは16袋用意した。

空は晴れ渡っていたが、大気は凍った棒のようだった。

なにしろ30年ぶりの「出会い」である。

心の昂揚も当然だが、ある種の不安が付きまとうのも無理はない。しかし、こうした状態とは上手く付き合えば、最後にカタルシスを得ることができるということを体験的に知っているから、それ程の重荷にはなっていない。つまりは年齢がそうさせている。そんな年齢になってしまった。もっと言うと、(誤解を恐れずにいえば)「会ってしまえば」という言葉に全てが集約されているといってもよい。

私たちの学年は8クラスあった。かりんとう2袋は清陵の「オンチコン」の参加賞であった。周り全てがクダらなく見えるこの時期に、学園祭の真夏の太陽は唯一の希望であった。この「太陽」と「カリントウ」は私の中で分かち難く結びついているのだが、今回は思い出のひとつという程度にして、16袋持ったのだった。

高校は十数年前に新校舎になっていた。昔と変わらぬ坂道を登ったところまではよかったが、あろうことか迷ってしまった。体育館の入口が判らないのだ。やっと入ることができた頃には、集合時刻は半分過ぎてしまっていた。中に入ると正面に貼られていた『清陵にあいたい。三十年目の出会い』という文字がとび込んできた。その瞬間、万感の思いが込み上げてきて、ひとつの風景に結実した。

入学間もない頃のことである。学級日誌があって当番制になっていた。しかし極めてルーズであった。更にその中身も全く自由であり、学級日誌とは言い条、随想録のようなものだった。2度目に私が手にした折、頁を開いて驚愕した。私への反論が大きく書かれていたからである。

当時先生にも時間外手当を支給せよという要求があり、そのことに関して私は「先生とは尊敬されるべき人物でなくて

はならないのだから、その人が時間外手当などというのはおかしい」というようなことを書いた。この考えに対し反論は大きな文字で2頁に渡って述べられていた。「今どきこのようなことを言う輩がいるからダメだ。教師は労働者である。聖職でもなんでもない」。読み終えて、暫く私は茫然としていた。内容もさることながら自分の述べた事柄にこれ程明解に、しかも多くの人の目に触れるところで反駁されたのは、生まれて初めてだった。

黙ったままでは負けてしまう。私は焦った。「やっぱり清陵だ。ウカウカできない」。結局、直に本人と議論するのが得策だと判断し、ある時、多くの学友の前で、「尊敬されるべき先生像」について論じた。準備は万端だった。相手はにこやかに聞いていたが、一言「古いなあ」と言った。私の負けだった。激論になって私が有利になる筈であった。あの時の池田洋治君は泰然としていた。

——あれから30年になるのだ——

新型の暖房器が大きな音をたてていた。しかし準備をしている者だけの体育館はガラんとしたまま、寒さだけが増していた。

念願だった「同期会」が平成11年正月の3日に実現の運びとなったのは、ひとえに藤森潔君の努力の賜である。彼は何人かの学友に熱心に同期会開催の意義を説いて廻り、ついに準備委員会を発足させたのだった。私はその代表者を仰せ付かっていた。当時の学友会の責任者という理由からだ。今更「学友会」もないものだとお断わりしたが、その熱意の故にお引き受けすることにした。

準備委員会は10月の半ばから計4回、小池義一君の経営する「カントリーキッチンくるみ」でもたれた。各クラス3名の委員は藤森君の要請に応えた学友だった。先ず名簿づくりから始まった。それぞれは葉書、電話などでクラスの情報を

清陵にあいたい! 30年目の出会い

諏訪清陵高校 72回生 同期会



集めた。しかし30年という歳月は、簡単には答えを渡してはくれなかった。随分と手間のかかる作業だった。皆、限られた時間の中で只管動いた。

1人、2人と学友が到着するうち、次第に暖房の効いてきた会場は、懐かしさと安堵感に充ちていった。先生方がお見えになった頃にはにはそうした雰囲気が頂点に達し、ゆったりと会場を包み込んでいた。恩師のお元気なお姿に接するのは嬉しかった。が、菊池、畑谷両先生がお見えになれないのは、さみしく切なかった。

式は厳かに始まり、矢崎俊二君が13名の早逝した友に追悼の言葉を捧げた。やや掠れた声で語られる思い出には惻々と胸をうたれるものがあった。矢崎君の人柄が滲み出た追悼であった。菊池先生、畑谷先生のご遺族から両先生の思い出が

寄せられ、三沢茂樹君と山田多美江さんが代読した。

ご来賓の祝辞は初めに三村秀夫元校長から頂いた。80を超えられて尚矍鑠として、ご自分の綽名の思い出などをお話になった。矢島子郎先生は近況をお話しになり、「この学年への心残りは修学旅行をしなかったことだ」と胸のうちを明かされた。宮坂久臣同窓会長には極めてご多忙の中ご臨席戴き、同窓会活動の概要をお話し頂いた。最後に窪田孝美現校長が、昨今の清陵気質についてお話しされた。

予定時間はオーバーしたが、好い式典だった。校歌は1・8、1・10番を歌った。その後、記念写真を撮ったが、今展げてみると、百余名の50歳に垂んとする顔に「清陵にあいたい。三十年目の出会い」の文字の方が、ちょっぴりかすんでしまっている。

学年会 だより

人生の節目 還暦を記念して大懇親会

笠原 文武 (60回)

昭和29年入学の60回生(睦和会)は去る平成11年4月10日、11日の両日、今年の3月31日をもって全員が満60歳の還暦を迎えたのを記念し、桃の花の咲き乱れる山梨県湯村温泉・常盤ホテルに於いて大懇親会を開催した。我々の学年は3年に1度同年会を開いているが、今年がちょうどその節目の年に一致したわけである。奇しくも、入学回生も年齢も同じ「6つの輪」で、何年か前に誰かが「睦和会」と命名した。

当日は朝から昇仙峡C.C.でのゴルフ組32名はコンペを済ませて、合流した。

先ず開会に先立って同級生でもある諏訪大社の柳沢忠志神職の、当時を彷彿させるユニークな祝詞に皆ニヤニヤしながら聴き入り(写真)、そしてお祝いを受けた後、記念撮影し(写真)、開会となった。既に我々の仲間も20名が他界し、リハビリに励む者も何名かいるなかで、永年勤めた会社を退職した者、あるいは他社、他業種に転職した者も数多く、ひたすら企業戦士として無我夢中で突っ走ってきたこともあり、当時の紅顔と今の老顔とがなかなか一致せず、しばらくして握手をしながら懐かしい昔話に花を咲かせていた。

60歳を転機にこれまでの仕事とはまったく違う分野での研究に没頭し、何編かを学会に報告(ただし学会誌に掲



載される前に返却されたとのこと)したり、逆に今までの仕事の中から幾冊かの著書を出版した者、好きな声楽に磨きをかけ、リサイタルを開く者、体力を生かして深田久弥の「日本百名山」全部に登頂すべく頑張っている者、その他、多種多彩な生き方が披露された。「これからの人生こそが己のそれだ」とロマンを求め、活き活きとした仲間も多いのに安心した次第である。

我々睦和会は来年、希望者参加(原則として夫婦同伴)で中国を訪ねる旅を企画しており、3年ほど前から積み立てをして出発を待っている者が約30名ほどいる。夫婦で50名くらいになろうか。唯、残念なのは百周年記念事業で200本を植えた桜が全滅、記念碑も崩れているとのことで、予定した観桜会は中止せざるを得ない。メインイベントは万里の長城で校歌を歌うことになろうか。

とにかく夜が更けるのも忘れて旧交を温め、最後に第一、第二校歌を声高らかに歌い、金色の民、あなうれしで更に氣勢をあげ、3年後の再会を約束して閉会となった。

翌日は都合のつく者はバスに乗って快晴の桃源郷、県立美術館、いちご狩り、ワイナリーでバーベキューと、目一杯、腹一杯、山梨の春を楽しみ、すべての日程を終了した。



学 校 だ よ り

平成 9 年度末をもちまして勇退しました松下勲校長の後、県教育委員会高校教育課管理係長でありました窪田孝美氏を第 26 代校長に迎えて、わが諏訪清陵高等学校の新年度が始まりました。以下、平成 10 年度の学校の様子を紹介して参ります。

4 月 6 日午後に行われました第 104 回入学式において 286 名（女子 113 名）の新入生を新たに迎え入れ、各学年 7 クラス、全学年 21 クラスの学校になりました。（3 月の卒業生は 8 クラスでしたので、全学では 1 クラス減となりました。）

4 月には恒例の学友会行事としての対面式（7 日）と新入生歓迎会（18 日）が行われました。校歌を歌う声が小さくなっている、あるいは校歌を歌えない生徒が増えているという指摘は学校内外で聞かれますが、「第 1・第 2」合わせて 10 分以上かかる校歌斉唱を、我が校の伝統として生徒諸君と共に守り育てて参りたいと思っております。新入生歓迎会の開会式では、生徒による窪田新校長胴上げのパフォーマンスが行われました。談話会も伝統行事として続いております。様々な主張や不満がありながらも、それを意見として人前でははっきりと述べたり、書いたりできない若者が多い中で、少ないながらも真剣な意見発表が行われていることを評価し、発展させたいものと思います。

高校総合体育大会南信地区大会は、ボート競技が他種目に先立って 4 月 29 日に行われ、清陵高校端艇部は男子シングルスカル（1・2 位）、男子ダブルスカル 1 位、女子舵手付フ

ォア 1 位、女子ダブルスカル 1 位の堂々の成績で県大会に舵を進めました。県大会においても 4 種目制覇を果たし、全国大会への出場権を獲得しました。6 月 20・21 日に新潟県津川漕艇場で行われた北信越大会では、男子シングルスカル 2 位、女子ダブルスカル 3 位の成績でした。そしてインターハイでは、女子ダブルスカル（波間洋美さん・堀内可奈美さん）が準決勝進出の快挙を成し遂げました。

5 月 16・17 日を中心に行われました他競技の南信大会におきましては、多くの部やチーム・個人が県大会出場権を勝ち取りました。続く県大会では、テニス部が男女共に団体でベスト 8 に進出できました。男子シングルでは谷内耕平君が優勝してインターハイ全国大会の切符を手に入れました。また、谷内君・斉川征太郎君の男子ダブルスも 2 位の成績を上げました。陸上部では男子 400m リレー（立石・土田・小野・望月の各君）が決勝 3 位で北信越大会出場権を獲得し、田中良樹君が 5 千 m 及び 3 千 m 障害で決勝進出を果たしました。

昨年度の野球部の活躍につきましては、既に多くの皆様にご存じかと思われますが、まず春季諏訪地区野球大会において、岡谷工業・東海第三・岡谷南そして決勝で下諏訪向陽を破って優勝しました。また、春季北信越大会県大会 1 回戦では、長野商業に 7-0 で勝利しましたが、2 回戦で残念ながら私立四強の一角、上田西に 8-0 で敗退いたしました。そして、第 80 回全国高等学校野球選手権大会長野大会では、2 回戦から出場し、美須ヶ丘に 15-7、伊那北に 13-1、長野日大に 10-2、塩尻に 7-0 と勝ち進み、準決勝で佐久長聖と対戦しましたが、佐久長聖の積極的な走塁にリズムを乱

〔平成 11 年度入試結果〕

卒 業 生 進 路 状 況						
卒業年月	進 学			就 職		合計
	希望者	進学者	%	希望者	就職者	
平成 11 年 3 月	271	170	62.7	1	1	272
平成 10 年 3 月	315	184	58.4	4	4	319

私 立 大	11 年度	10 年度	私 立 大	11 年度	10 年度
文教大	5(1)	2(0)	日本女大	5(4)	3(1)
青学大	12(6)	7(2)	法政大	23(13)	14(5)
学習院大	4(3)	4(3)	明治大	25(16)	17(14)
国際基督教大	0(0)	2(0)	立教大	7(4)	8(4)
慶應大	9(5)	8(6)	早稲田大	27(19)	18(11)
国学院大	1(1)	2(1)	同志社大	6(3)	6(5)
上智大	6(4)	3(0)	立命館大	19(8)	10(4)
中央大	17(7)	16(5)	その他の私立大	164(85)	163(57)
専修大	7(4)	4(3)	私立大計	373(205)	312(134)
東京電機大	9(1)	2(2)	短大計	11(3)	5(1)
東京理大	17(14)	9(5)	各種専門学校	9(1)	10(0)
日本大	10(7)	14(6)	文部省所管外大	2(1)	1(0)

4/10 現在 *表中()は過年度生の内数

国 公 立 大	11 年度	10 年度	私 立 大	11 年度	10 年度
北海道大	1(1)	4(3)	金沢大	5(3)	5(1)
弘前大	0(0)	0(0)	山梨大	6(0)	3(0)
東北大	10(3)	5(2)	山梨医科大	0(0)	0(0)
茨城大	4(1)	2(0)	信州大	13(4)	17(3)
筑波大	3(1)	5(3)	静岡大	4(2)	4(0)
筑波大	1(1)	3(1)	名古屋大	3(3)	9(3)
埼玉大	3(1)	4(1)	三重大	1(0)	1(1)
千葉大	6(2)	6(2)	京都市大	1(1)	1(1)
東京大	3(2)	4(1)	大阪大	1(0)	0(0)
東京学芸大	0(0)	2(0)	奈良女大	0(0)	0(0)
東京農工大	3(2)	1(1)	広島大	0(0)	0(0)
東京工大	1(0)	0(0)	その他の国立大	34(12)	24(4)
東京医科歯科大	0(0)	0(0)	国立大計	107(39)	119(33)
東京芸大	1(1)	0(0)	高崎経大	1(0)	0(0)
お茶の水女大	3(2)	0(0)	東京都立大	2(2)	5(1)
一橋大	0(0)	4(2)	横浜市大	1(1)	2(1)
東京外語大	0(0)	6(1)	都留文大	1(0)	3(1)
横国大	6(0)	4(0)	他の公立大	11(2)	7(0)
横国大	4(1)	4(2)	公立大計	16(5)	17(3)
上越大	0(0)	1(0)	国公立大計	123(44)	136(36)

最先端技術にはロマンがある

理想を追究したツイストノイズカットトランス
ノイズ障害防止の切札で、近未来に先駆けるトランスです



高度情報化社会のアキレス腱＝不要電磁波・ノイズ障害の防止に尽くす

株式
会社

電研精機研究所

代表取締役 矢ヶ崎昭彦 (47回)

本社・工場／〒203-0042 東京都東久留米市八幡町1-4-21
TEL: (0424) 73-3745 (代) FAX: (0424) 74-0613
大阪営業所／〒550-0013 大阪府大阪市西区新町1-7-5 マッセ四ツ橋ビル5号館
TEL: (06) 538-1118 FAX: (06) 538-2777

されてしまい、惜しくも12-4で敗退しました。大会中に皆様からいただきました、絶大なる声援に対して心から感謝申し上げます。

期日は前後しますが、6月12日・19日に、中間選挙を経た後期学友会会長・副会長の信任投票が行われ、会長に織田雅之君、副会長に前島將男君と赤羽環希さんが選出され、前期の高田政義君(会長)、田多井理加さん・中島佑介君(副会長)から新学友会を引き継ぎました。

第48回「清陵祭」(実行委員長 武居雅紀君)は7月18日から21日まで行われました。基本的には「清陵祭」は文科系クラブの発表の場であり、演劇や音楽関係各部の発表は毎年盛大に行われますが、展示発表の質および量については、役員や一部の生徒達からも奮起を促す声が聞こえます。残念ながら難しい問題に部員が本気で取り組みれば取り組むほど、その発表の見学(見物)者が減ってしまうというジレンマに悩んでいる文科系クラブ員も少なからずいます。発表の仕方に工夫を凝らす等、顧問も一緒になって清陵の文化を高めたいものと考えております。学友会誌「清陵」50号の清陵祭特集のアンケートを見ますと、参加する場面を見つけれなくて、欲求不満に陥った生徒もかなりいるようです。だからと言って、全員が参加できる催し物を増やせば文化祭としての質が高まる訳ではありませんので、これも難しい問題です。

音楽部、吹奏楽部、室内コンチェルト部、フォークシンガ部、そして古典ギター部とある音楽関係の部の中で、昨年度は古典ギター部が7月に大阪で行われた全国高等学校総合文化祭に出場しました。例年になく10人も入った1年生部員にとっては、とてもよい舞台度胸作りになったことでしょうし、部活動の高い目標を見つけることのできた経験であったと思われます。

9月14日には端艇大会が行われました。企画運営に当たった執行委員会の工夫で、新しく敗者復活戦を実施する予定でしたが、強風により午前で打ち切りざるをえなくなってしまい、何とも残念でした。

湖周マラソンは、昨年から再び「うしまさ坂」を含む約18キロのコースに変更して、10月27日に実施され、同窓生・職員を含む746名がゴールしました。ご協力いただいた地域の方々並びに沿道でご声援してくださった方々に感謝し、御礼申し上げます。

総合体育大会秋季大会(新人戦)では、男子籠球部、排球

部、男子硬式庭球部、女子軟式庭球部、陸上部、羽球部、蹴球部が県大会に駒を進め、更に陸上部の男子200m(立石一成君)、男子400m及び800m(土田実君)、男子3000m障害(越田真二君)、男子400mリレー(小野・立石・望月・土田の各君)と女子千500m(長田みさきさん)が北信越大会に出場できました。そして男子400mリレーでは第2位の成績をおさめました。今年度の活躍を期待できます。

野球部の秋季大会は、南信地区予選の決勝で飯田に7-6で敗れて、2位で県大会に進み、1回戦は太田に21-2の大差で勝利したものの、2回戦でまたしても佐久長聖に当たり、5-4で惜敗、北信越そして春の選抜大会への夢は絶たれてしまいました。

11月7・8日に長野高校を会場に行われた第6回高校生英語ディベートコンテスト(県高校文化連盟英語専門部主催)において、イングリッシュクラブの清陵Aチーム(平河綾さん・関聡子さん・宮坂聡君)は、第3回大会以来2回目の優勝を飾りました。

11月10日から13日まで、2年生は京都・奈良へ研修旅行に出かけました。秋の古都において、グループ研修等主体的にまた落ち着いて、文字どおりの研修をして帰校した生徒達は、一回りも二回りも大きくなって見えた、とは家族ばかりか教職員も感じたところでした。

冬季スポーツでは牛山貴広君が、第54回国体長野県予選のスピードスケート少年男子5000mで1位、更に第48回インターハイの男子1000mで、14分22秒69の大会新記録並びに全国高校新記録で第3位に入賞しました。その成果により、彼は平成10年度県教育委員会表彰を受けました。



ノートパソコンが設置された情報処理教室

麗人酒造株式会社

諏訪市諏訪二一九一二
電話 〇二六六(五二)三二二(代)



鑑評会出品酒
大吟醸 麗人
7200ml
4,000円

麗人 蔵の水と歴史

酒は風土に醸される……

霧ヶ峰の澄んだ空気

湧き出る地下水

深々と冷え込む冬の厳しさ

加えて良質な米

酒造りに欠かせない環境が

全て満たされたこの地で

酒の真髄を求めてきました

寛政元年からの伝承の技

品質本位で一徹な蔵人たち

常に「品質第一」を貫いて

麗人の如き酒を醸します

学校の施設設備も充実されております。11月には北校舎4階の第2理科講義室を改造して情報処理教室とし、生徒用のノートパソコン40台と先生機及びサーバーが設置され、インターネットに接続できるようになっております。教科指導やHR、そして部活動等における活用の方法を研究して、日進月歩の情報化時代を担う次代の若者にふさわしい教育もしたいものと考えております。

同窓会の皆様には、日頃から物心両面の援助をいただいておりますが、昨年12月には生徒昇降口前の「黎明の像」脇に石標を設置していただきました。それぞれ3年すればここから飛び立つ生徒達が、現在の清陵高校の位置（標高782.5m、東経138度7分44秒、北緯36度2分7秒）を確認しておくことは意味あることです。

いよいよ3年間の学習を終えて巣立とうとする3年生（及び卒業生）の大学入試センター試験は、1月16・17両日に行われ、3年生272名中225名（82.7%）が受験しました。それに続く国公立各大学の前期・後期試験及び私立大学入試の結果については一覧表をご覧ください。卒業生の数が前年度より47名減っていることを考慮しますと、大いに健闘してくれたものと考えますが、如何でしょうか。勿論、決してこれに満足している訳ではございません。生徒諸君には自らの目標に向かって絶えざる努力を続けてほしいと思いますし、我々教職員は、生徒のやる気に火をつけることを第一の任務と考え、日々努力して参る所存でございます。

3月8日の卒業式に清陵を巣立っていきました272名（女子104名）の行く手に幸多かれと、保護者・家族の皆様と共に祈りました。彼らの今後の活躍に大きな期待もしております。

未熟児網膜症で光を失った河野泰弘君が、小・中学校に続き高校も盲学校でなく普通学校で学びたいという希望で、平成8年度に本校に入学しました。その後の高校3年間の本人や家族の方々の努力には心から敬意を表します。学校もできる限りの援助をしたつもりですが、とても十分とはいきませんでした。教科書の点訳など、市内外の多くのボランティアグループのお世話になりました。改めて御礼申し上げます。彼持ち前の積極性と明るさで、清陵での学習を全うし、晴れて中央大学法学部に進学が決まりました。家族から離れて一人暮らしを始めた彼は、また新しい困難に立ち向かわなければならぬものと思いますが、周囲の友人達に元気を分けて

いたほどの清陵での生活振りを続けて、彼の夢に向かって進み続けてくれることを切に願い、また期待しております。

卒業生が出ると新入生を迎えて学校は続いていきます。3月11日の学力検査は290名が受験しました。そして19日には282名（女子104名）の入学予定者を発表しました。

最後に、平成10年度末（11年度）教職員人事異動について記します。

【退職】

長田恵美実習助手（長野吉田高校養護教諭に新採用）

佐々木秀夫講師（茅野高校教諭に新採用）

牛山真弓講師（篠ノ井東中学校教諭に新採用）

【転出】

松田定盛教頭（軽井沢高校校長へ）

駒井千枝子教諭（国語 松本盲学校へ）

金井滝生教諭（数学 松本県ヶ丘高校へ）

木下永生教諭（数学 阿智高校へ）

斉藤仁教諭（理科 屋代高校へ）

天野修一教諭（保健体育 岡谷東高校へ）

丸山英男教諭（保健体育 松本深志高校へ）

林 隆憲教諭（音楽 岡谷東高校へ）

半田英人教諭（美術 上田高校へ）

工藤哲夫教諭（書道 松本美須ヶ丘高校へ）

【転入】

丸野範彦教頭（野沢北高校教頭から）

藤澤幹彦教諭（数学 諏訪実業高校から）

下澤秀夫教諭（理科 県総合教育センターから）

赤穂好児教諭（保健体育 上伊那農業高校から）

新井研二教諭（保健体育 木曽山林高校から）

宮下丹生教諭（音楽 富士見高校から）

平林義男教諭（美術 岡谷東高校から）

小宮山忠治教諭（書道 塩尻高校から）

【任用】

奈良井弥生実習助手

竹村一司講師（数学）

土橋邦彦講師（保健体育）

以上、羅列的ではありますが、平成10年度の学校だよりとさせていただきます。

（教頭 丸野範彦記）

整形外科 外科 産科 婦人科 立 木 医 院

立 木 正 純 (38回)

(日本体育協会公認スポーツドクター)

(山本喜市先生顕彰碑保存会会長)

(全日本スキー連盟強化本部スポーツドクター)

立 木 委 枝

〒392-0004 諏訪市諏訪1丁目22-24

電話 0266-52-1074

代表取締役

新村 良雄 (四九回)
新村 隆 (八五回)

下諏訪町四ツ角

☎ (〇二六六) 二七 八五〇五

諏訪市
不二屋もなか

後輩の
みなさんへ

化学と人間性

中村俊夫 (66回) 信州大学理学部教授

1 寄 稿

清陵出てから36年が経っており、これまでに時折出席した同窓会で、会の進行を仕切っていた先輩を思い浮かべてみて、自分が今そのような年齢になっていることになりましたが、とても自覚が足りないというのが実感です。当番幹事の一人からの将来に向かってのメッセージとして、後輩のみなさんへ感じることを記します。

私は清陵との出会いを深く感謝しています。「自由と誇り、自らを治める精神、質実さ」などを、先輩から、先生から、同僚から得る機会を作ってくれた清陵に感謝の意を表したいと思います。その後の人生で何か困難なことに遭遇した時、心の底から沸き起こって、これを乗り越える力を与えてくれました。多感な青春時代に、催眠術にも似て自己陶酔的に、「人の生きる道」を教えてもらいました。

私が清陵時代を送ったころは、「人生わずか50年」という言葉を聞いたものです。それからは寿命が徐々に長くなりました。極度の多忙にもかかわらず休養が採れない人や、急病が命取りになった人を除いて、60歳代の人も、さらに70歳を超える人も珍しくなくなる時代が足早にやってきました。生活はといえば、たとえば誰かが亡くなったりすると、「誰々もやっと楽になったか」というような声が聞かれたほどで、「もう一度人生を繰り返そうとは思わない」というのが、世間の実感であったでしょう。その点からすれば私たちはしばらくの間、大いに繁栄の時代を過ごしてきました。そして今、時代は巡って再び寿命は低年齢化の兆しを見せています。昭和35年入学の同輩の約7% (20人) がすでに他界されていると聞きました。

私は化学で生計を立てていることが、とても幸せであると思っている一人です。「化学の世界は地球上で場所を選ばず、同じ実験結果が再現されることが基本にあり、既成の理論によって実験を組み立て、その結果をよりよく理解するために理論を立て直す」という「真実との不断の対峙」のなかで生きています。化学の学徒は自ずから神のなせる技にひれ伏す日常を過ごすことになります。

1965年には僅か22万種にすぎなかった化学物質は、現在1850万種に達し、毎年100万近くが新たに合成・単離されて登録数を増やし続けているということです。

近年の環境問題は、将来を考える時心痛むところですが、関心の高いダイオキシンについて考えてみますと、多数のダ

イオキシンの中で毒性を示す数種類が、目的物中にどれだけ存在するかを特定することは、まだクリアしなければならない問題を残している現状です。微量なら生命の維持に必須な元素、たとえば亜鉛、クロム、銅なども、量が過ぎたり、あるいは存在する化学型によっては毒にもなります。

環境の問題やエネルギーの問題に少しでも貢献できる人材を育てることは、化学に携わる者として生き甲斐を感じるものの一つです。Pedarsenというアメリカの会社の一化学者は、研究室の片隅でこつこつと実験していて、ノーベル賞を貰うことになりましたが、そのような最近の物語りが成り立つというのも、化学の世界であります。

1から10までの変化を10から100までの変化と同じと見積もるように、10倍の変化に対して一つずつ増やしていくような対数の概念は、宇宙の真理を理解するために必要ですが、どのようなきっかけで数学者の脳裏にこのような概念が生まれたかということに神秘を感じます。宇宙には理論上、人間が物理的に感知できない物質が、実在として認知される量の何割にも及んで存在するということでもあります。

大学は近年、戦後の新制大学が発足した時と同程度といわれる機構改革 (たとえば教養部廃止) を経験しました。そして今、大学の個性化と社会への解放の時を迎えています。放送大学制度の発足は、生涯教育の重要性と相まって、記されることの一つでしょう。

私が在籍する信州大学は、教官1000人、その他職員1000人に対して、学部学生がその10倍のほぼ1万人おり、大学院に1500人、そのうち200人が博士課程に、また、東アジアを中心に留学生が300人ほど在籍していて、少なからず国の財源を使用しています。8学部からなる総合大学ですが、それぞれの地域性を活かして、独自性を高め、多様化した学生にきめ細かい教育を施し…と、大学人の自己改革を伴いながら、国内外の社会への貢献が要請されています。化学を修めて社会へ巣立つ学士は化学の概念を背景に社会問題に対応できること、修士は化学の研究が遂行できること、博士は独立した研究者になることが目標です。教員は研究の方向を決め、成果を国際学会等で報告したり、論文として発表することが主たる任務の中にあります。

さて、私たちが諏訪の風土で成長する後輩の将来を考える時、どのような方向に伸びていってほしいかという問いに当



昭和シェル石油特約店

株式会社 細川商店

諏訪市諏訪二丁目10番4号 ☎ 本店 (0120) 210-613

代表取締役会長 細川 昭 八 (51回)

代表取締役社長 細川 洋 一 (84回)

専務取締役 宮坂 友比古 (67回)

常務取締役 細川 浩 二 (86回)

国内旅行・海外旅行・個人、団体旅行は

(旅の総合プランナー)

エプソントラベルサービス株式会社

諏訪市大和3丁目3番5号

TEL (0266) 52-5515 (代)

たります。「清陵の出身者は、なぜという原理を問うことができる数少ない存在だ」と聞きます。諏訪人の気質は論理性に秀でていること、社会のからくり比較的無頓着、あるいは無関心で生きられる資質を有していることがあるように思えます。永年に亘ってこの風土と歴史によって育まれてきた長所を大いに活かして、社会で活躍してくれる後輩が巣立つ

てくれることを願っています。願わくば、自然の理にかなって、自分以外の者の痛みを感じることができる感性を持って、そして自らも幸せに生きてくれることを願っています。

自分を省みつつ、「千万人といえども我ゆかん」の気概を持って……。

寄稿

2

後輩の
みなさんへ

竜胆会

徳永昭輝 (66回) 新潟県民病院地域医療部長・産婦人科部長

昭和38年の豪雪の年に受験して、新潟に来た。信州の八ヶ岳のふもとを離れて今年で36年になる。

入学してからは「六花寮」(全学の男子学生寮)で5年間過ごした。当時、寮では“寮の自治を訴え”、医学部では“インターン制度の見直し”といった学生運動が活発に行われていた。

寮は新潟の海岸から数百メートルの砂防林(松林)の内側の、新潟市では高台に建てられていた。今は、寮も取り壊され、入口の門と桜の木だけが、当時の情景を偲ばせてくれるだけとなっている。寮歌に「砂丘に続く、ぐみの道…」という一節があり、昔は海まで数百メートルも砂丘を歩いて行ったと聞かされている。今は日本海の荒波に浸食されないようにテトラポットが置かれ、昔の面影はまったく無い。しかし、真夏の日本海に沈む夕日に、佐渡が島や、テトラポットから釣りを楽しむ人の姿が茜色の空の中にシルエットのように映し出される光景は実に美しい。

この海岸線の一角に日和山海水浴場がある。わたしが医者になって初めて溺死体を扱った場所である。当時は、インターン制度が廃止され、卒後研修制度が無かったので、内科、麻酔科の自主研修をしてから産婦人科に入局した。

その自主研修中のある夏の日曜日の午後、市内の診療所の日直をしていた時、「日和山の海水浴場で“溺れた人”が救急処置を受けている。近くに医者がいないので“往診してほしい”」との緊急要請が消防署からあった。

救急車で急行する間“もし生きていたらどうしよう……”と、不安に襲われながら現場に到着した。大勢の人垣の中で、救助隊員による救急処置が行われていた。目の前は緊張のために真っ白になり、血圧計を取り出し、腕に巻いてからやっと“既に死亡していて、死亡確認を医師に依頼したこと”がわかり、脈や瞳孔反射の無いことを確認して“死の宣告”をした。白衣を着た「木偶の坊」だったことを、医師になった

今でも忘れることができないで脳裏に残っている。

しかし、未だ卒後の研修制度は確立されていないのが実情である。厚生省は卒後2年間、指定病院での研修義務を法制化しようとしているが、最近の新聞やテレビ・ラジオ報道では“医療ミスや医療事故”が大きく取り上げられており、充実した“卒後研修制度”が必要だと考えられているが、インターン制度の二の舞にならないように、学生の意見はもちろんのこと、医療関係者以外の第三者の意見を十分取り入れた制度になることを希望したい。

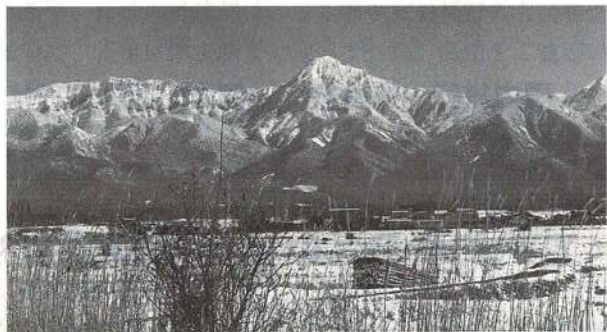
医療の進歩は、多くの患者さんに高度医療を受けられる機会を与えたが、その一方で“人間味のある温かい医療”が犠牲になっていないだろうか?

私どもの病院正面玄関の一角に“ウイリアム・オスラー”の胸像が建立されている。彼はカナダの田舎で生まれ、アメリカのペンシルバニア大学、イギリスのオックスフォード大学で内科学の教授として活躍し、また学生や医療従事者に対する教育的な啓蒙に努力された医者である。オスラーは「医療は患者と共に始まり、患者と共に在り、そして患者と共に終わる」と、“全人的な医療”“患者中心の医療”の在り方を教えている。

“患者中心の医療”を基本理念としている市民病院でも、今の最悪の経済不況のなかにあって、「在院日数の短縮」、「効率的な医療」を追求しなければならない状況に追い込まれている。なんとしても「患者不在の医療」だけは避けなければ……。

もう少しで、信州の山々では一斉に木々の若葉が噴き出す季節となる。白樺もいいが、落葉松の新緑の美しさが強烈な印象として残っている。また、新緑の中に咲く“山桜”や“こぶし”の花が目に見えなくなる。

市民病院に赴任して17年になる。産婦人科の医師全員(4人)が信州の出身者という時期があり、県花の“りんどう



八ヶ岳(撮影 矢崎壽雄 48回)



ひかり味噌株式会社

林 善八郎(58回) 小平 廉(58回) 林 博優(64回) 林 善博(81回)

少年の頃の質素な食事に、おいしい味噌汁があった。

お袋の温もりがあった。故郷の味を伝えたい。

贈る人の心の温かさを伝えたい。

大寒仕込み天然味噌「産直 雅」

500g×6 ●お届価格 ¥3,670

●申し込み方法/ひかり味噌株式会社「産直の係り」まで

①ハガキ/〒393-0084 長野県諏訪郡下諏訪町栄町5238

②TEL.0266-28-5188/FAX.0266-27-8224

●お支払い方法/同封の振替用紙でお支払い下さい。

(竜胆)を県人会(産婦人科の医師を中心とした)の名称とし「竜胆会」と決めた。“りんどう”をモチーフとしたネクタイピン、ブローチを作って、年に2回集まり議論したり、

“信濃の国”を歌っている。

“信州人は……”と、他人はいうが“長野県人”とは呼んでくれない……。

後輩の
みなさんへ

科学技術振興? 雑感

林 央(66回) 理化学研究所

3 寄稿

平成7年に科学技術基本法が制定され、これに基づいて10年程度を視野においた5年間の科学技術基本計画が、科学技術会議での検討を経て、閣議決定として施行されている。科学技術基本法の目的は、21世紀に向けて我が国が「科学技術創造立国」を目指し、科学技術の振興を強力に推進するため、科学技術政策の基本的な枠組みを与えるものとなっている。

これを具体化するための科学技術基本計画では、研究開発の推進に関する総合的方針と、総合的かつ計画的な施策の展開がまとめられている。後者では、研究者等(研究者および技術者)の養成・確保と、研究開発システムの整備・充実、多元的な研究資金の充実、私立大学における研究の充実、民間の研究開発の促進と国等の研究開発の成果の活用、国際的な交流等の促進、地域における科学技術の振興、科学技術に関する学習の振興および理解の増進と関心の喚起、などが示されている。

基本的な考え方として異議を唱えるものではないが、実施に際してのいくつかの問題を含んでいることも否めない。

私の所属する理化学研究所(理研)は、1917年に日本で初めての民間研究所として設立され、その後紆余曲折を経て、1958年に「科学技術(人文科学のみに係わるものを除く)」に関する試験研究を総合的に行い、およびその成果を普及することを目的とする」特殊法人として再発足している。研究所本体と附属センターで900名を超え、任期付きの若手研究員400名弱、2,000名を超える外来研究者を有し、基礎・応用物理、化学、基礎工学、生命科学、脳科学と幅広い分野の研究を行っている。科学技術推進の政策により、予算はこの10年で倍以上に増え、昨年(平成10年度)は500億円を超えている。研究費の伸びは、研究所の活性化・研究分野の拡大に寄与しているともいえるが、これらの大半が大型プロジェクト研究費として配分されたもので、一方、研究活動の基本となっているはずの一般研究費の伸びは微々たるものである。新しい組織設立の制限から、本来独自の活動拠点として存在すべき機構が、サテライト研究所的な形になっているものもある。

研究者等の流動化・若手研究者の育成を図る目的で導入されている若手研究員制度は、人的交流が円滑に実施できる状況下では有効であるといえるが、現状では研究者の使い捨ての危惧もはらんでいる。研究開発の効率的推進を図るために、研究開発課題・研究開発機関・研究者の評価が重要であり、そのための評価制度の整備が指摘されている。

理研では数年前から、国内外の専門家による評価制度を導入し、厳しい指摘を受けながらも研究活動への反映を努力している。国公立研究所や大学でも、評価制度の導入が積極的に進められているが、何を評価の基準とするのか、あいまいな点が多い。論文や取得特許の数は一つの目安にはなるかもしれないが、必ずしも適切な評価指標とはいえない。

将来の研究者等の教育を行う大学に関して、研究活動の活性化・研究基盤の整備については触れられているが、学生への対処は省かれている。これは、教育に関する事項は文部省の管轄であるという、役所間の壁に起因していると感じる。行政改革による文部科学省の設置がこの矛盾を解決するとも思われるが、科学技術振興をうたう我が国の大学教育における問題は大きい。

「生物を知らない生物系学生増加」(正木春彦東大大学院助教授—日本経済新聞1998年1月18日)では、医学系や生物系の大学に入学した学生の何割かが高校時代に生物を履修していないことが指摘されている。理工系学部でもこのような問題が顕在化しており、物理を履修せずに工学部に入ってくる学生の増加は、従来の教育方法では専門教育に対応できないことを示している。ゆとりと創造性を目指したとされる教育課程審議会の答申が、大学入学試験の弊害を解消するどころか、大学教育まで危うくしている。

立花隆氏は、「知的亡国論」で、大学教育はゼネラリストの育成が大切であり、現在進められている学制改革は、教養のない専門バカの大量生産機構になりつつあると述べられているが、現状ではいい意味での専門バカの育成さえも不可能になってしまうのではないかと感じる昨今である。

デジタルイメージング機器のCHINON

目に見える形、色、さらには感性までもデジタル情報に置き換える高い技術。ISO-9002認定という世界に認められた確かな品質。21世紀に向けて急速に進む高度情報化、マルチメディア化に、私たちは高精度なデジタルイメージング機器で応えています。



——感性を情報に。

チノン株式会社

〒391-0293 長野県茅野市中大塩23-11
TEL. 0266-82-2000 FAX. 0266-82-2010 <http://www.chinon.co.jp/>

追悼

科学会と諏訪彰先生

宮坂 裕 (45回)

平成 6 年 9 月中旬、諏訪彰先生より 1 通の手紙が届きました。先生については、大先輩であり地震火山学者であることくらいしか知らず、何故手紙を送ってくれたのか少々気にしながら開封したところ、「諏訪中学科学会 OB 会を開催したいので、発起人になってくれないか」との依頼でした。私は最後の科学会誌 20 号を発行した折の副幹事（幹事は羽田正彦氏・45回）であったために先生が調査のうえ通知を下されたことを知り、俄に私自身の懐旧の念が高まり、昔の科学会の方々に会って思い出話をしたい衝動にかられ、早速承諾の返事を出しました。この時から諏訪先生との交流が始まりました。

旧制諏訪中学科学会 OB 会（後日諏訪清陵科学会と改称）の委員長に諏訪先生、東京側委員 5 名、諏訪側委員は松沢一夫（40回）、浅川清栄（44回）、羽田正彦、稲垣益次（49回）、新村良雄（49回）の諸氏と私の計 6 名で進めてゆくことになりました。

先生の科学会 OB 会復活に対する意欲は並大抵のものではなく、21 世紀の日本の発展には、正しい科学教育の……と話し始めると堰を切ったかのように、科学会ゆかりの三澤勝衛先生はじめ諸先生の名前が次々と飛び出し、話が数時間に及ぶことは稀ではありませんでした。

まず、OB 会復活総会に並行し、霧ヶ峰などの植物研究に精励された飛田先生の記念講演会、次の総会には科学会の生み親であり、育ての親でもある偉大な教育者三澤先生についての講演会の実施計画を、諏訪先生のご指導のもとに開始しました。諏訪側の 6 名の委員はお互いに仕事をもっており、全員出席できたのはほんの数回に止まりましたが（ちなみに打ち合わせ回数は 20 数回に及ぶ）、回を重ねるにしたがい先生の科学会に対する情熱は益々つのる一方で、軽い気持ちで委員になった私も、いつの間にか是が非でも先生の希望を達成させなければならないと思うようになっていました。

諏訪清陵科学会総会、懇親会の実施に併せて、第 1 回目は平成 8 年 4 月 21 日「霧ヶ峰の植物と飛田廣先生記念講演会」、

第 2 回目は平成 9 年 11 月 8 日、9 日「三澤勝衛先生没後 60 年記念講演会」が開催され、いずれも諏訪先生の努力の結晶が実り、盛大裏に幕を閉じることができました。

しかし、先生はこの頃、既に心身ともに極度に疲れておられ、11 月 9 日に会が無事終了し、お宅までお送りした際、ゆっくり休養されるよう申し上げ、お別れしたのが最後でした。

その後平成 10 年 4 月、先生からの最後の便りには「数年がかりの『諏訪清陵科学会』再興、飛田、三澤両先生のご遺徳顕彰の宿願は一応達成でき、感謝の念を禁じ得ません。しかし、12 月には体調まったく崩れ、連日通院し……3 月 26 日、入院し腰をすえてオーバーホールすることになりました」とあり、最後に「再会の機会を得られなくなるといけませんので、この便りを書きました」と締めくくられてありました。

何か気になる一文でしたが、11 年の年賀状もいただき、近いうちにまた元気な先生の声を聞けるだろうと心待ちにしていたところ、3 月 13 日午後、先生のご子息よりの連絡で 12 日にご逝去されたことを知り、愕然としました。最後のお別れの日、玄関先で「ご苦労様。やっと終わったね。近いうちに慰労会をしようや」と言って、家に入られた先生の背を丸めた後ろ姿が今もありありと眼に浮かんできます。

最後に、先生のご遺業を損なうことなく、会員相互の親睦を図るとともに、科学教育の振興にも寄与し、設立された諏訪清陵科学会が有名無実にならず、益々発展するよう努力することを誓い、先生のご冥福を心からお祈りする次第です。



第 1 回科学会 OB 会総会にて 前列右から羽田正彦、松沢一夫、諏訪先生、浅川清栄、宮坂裕。後列右から鈴木尚文、新村良雄、稲垣益次（平成 8 年 4 月）

品質一筋

造り手である私たち自身が舌鼓を打って飲む酒。
大切な家族に安心してすすめられる酒。
親しい友人に胸を張って贈ることができる酒。

私たちはお客様にそんな真澄をお届けしたいと願っています。

だから、品種や産地が分からない米は買いません。

製造工場のディテールには徹底して



こだわります。

一〇〇% 自社製造を守りぬき、

純米酒比率の向上にも力を注いできました。

創業から三三七年目となる今年も、

私たちは

お客様のお顔を自らの家族や友人の

顔に重ね合わせながら

美酒を醸し続けます。

信州が生んだ天下の銘酒

真澄
マスミ

清酒真澄醸造元

宮坂醸造株式会社

〒392-8686 長野県諏訪市元町1-16

TEL.0266-52-6161

FAX.0266-53-4477

www.masumi-sake.com/

計 報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

(平成10年4月から平成11年3月までの間に、ご連絡のあった方々)

お名前	逝去年月日	回	お名前	逝去年月日	回	お名前	逝去年月日	回	お名前	逝去年月日	回
有賀今朝雄	H.10.4.25	23回	大久保一治	H.7.7.9	35回	北條 光彦	H.10.6.4	40回	吉田 直人	H.9.5.3	50回
酒井 了純	H.8.12.9	24回	金澤 正巳	H.10.4.14	〃	小口 彬	H.10.5.14	41回	手塚 昌孝	S.38.4	51回
今井 洋	H.10.9.24	26回	藤森弥寿雄	H.10.12.16	〃	片倉 清志	H.10.6.25	〃	赤坂 良雄	H.10.8.15	52回
関 五朗	H.10.4.26	〃	飯沢 浩也	H.10.7.2	36回	小口 達雄	H.10.4.18	42回	山口 昭一	H.9.4.15	〃
名取 寛治	H.10.12.9	〃	伊藤錦之助	H.10.7.6	〃	小松 昌明	H.10.7.28	〃	池上 貞平	H.10.5.21	57回
根橋 四郎	H.9.2.26	28回	小口 久七	H.10.9.17	〃	酒井 種幸	H.11.3.1	〃	伊藤 卓延	H.10.3.3	〃
矢崎 亀重	H.10.3.16	〃 職	小口 輝雄	H.8.3.17	〃	土橋 清志	H.8.9.17	43回	永田 真一	H.10.3.7	59回
藤森 作二	H.9.8.12	29回	早川 斐雄	H.9.10.13	〃	藤森 清	H.10.4.9	〃	松澤 誠	H.10.1.27	60回
宮沢 伝	H.9.3.2	〃	尾澤 賢一	H.10.12.12	37回	小口 傳	H.10.10.2	44回	藤森 健次	H.10.10.14	61回
篠遠 昇	H.11.2.11	30回	平林 正貴	H.10.5.6	〃	河手 博	H.10.2.10	〃	境内 安宏	H.10.7.3	〃
春原 俊介	H.7.8.19	〃	平林 光美	H.9.5.2	〃	北沢 泉	H.10.8.24	〃	金子 和彦	H.8.5	63回
高橋 正男	H.10.9.19	〃	吉沢不二男	H.10.6.13	〃	小島 夏生	H.10.4.28	〃	水野 公策	H.10.11.7	67回
林 七雄	H.10.11.16	〃	荒木 嘉隆	H.11.2.11	38回	伊藤 節夫	H.10.10.2	45回	林田不二夫	H.10.9.29	職
三井 為友	H.10.9.13	〃	小川 真一	H.10.12.3	〃	関 禮治	H.10.5.28	46回			
牛山 金路	H.9.1.17	31回	小川 芳郎	H.10.10.16	〃	寺島 良臣	H.10.4.16	〃			
藤森 朋美	H.10.10.14	〃	諏訪 彰	H.11.3.12	〃	有賀 権吉		47回			
岩井 真澄	H.10.	33回	増沢 健郎	H.9.5.24	〃	小坂 宏夫	H.10.8.	〃			
佐藤 光夫	H.9.7.17	〃	上条 保	H.10.8.24	39回	河西 国雄	H.11.3.15	〃			
高木 常雄	H.10.11.30	〃	北澤 淑夫	H.11.1.7	〃	永田 五一	H.9.5.1	48回			
浜 弘人	H.10.	〃	竹村 功	H.8.11.21	〃	樋口 重友	H.9.7.1	〃			
黒河内太郎	H.11.2.12	34回	塚原 純	H.10.5.8	〃	五味 亨	H.9.5	49回			
両角 綾雄	H.8.1.17	〃	増沢 四郎	H.9.12.6	〃	藤森 辰郎	H.10.11.24	〃			
内山 直三	H.8.	35回	小坂 房雄	H.10.11.1	40回	小池 一堂	H.9.3.13	50回			
			長谷川英明	H.11.1.14	〃	両角 庸一	H.9.6.6	〃			

お詫びと訂正

昨年の計報欄(会報24号)で、当方のミスにより79回平出義明さんを死亡と報じてしまい、誠に申し訳ございません。ご当人には不快な思いと多大なご迷惑を、また関係の方々にもご迷惑をおかけ致しましたことを深くお詫び致します。

思い出の
アルバム

竹内 勝海 (66回)

「清陵の時の元気はどこへ行ってしまったんですか」と言われることがある。清陵時代の私の思い出はほとんどが親友会(岡谷北部中学校)のことである。伝統を忠実に、また、それに輪をかけて、後輩に伝えるべくガリ版刷りのコンパ歌集まで作り、コンパに明け暮れた日々だった。



写真は御野立キャンプの時の1枚。新入生歓迎コンパ・試胆会・野営(キャンプ)・高ボッチ山御来光遙拝・追出しコンパの年中行事のほかに、カレーライスコンパを何回しただろうか。

特筆すべきは清陵祭の合唱コンクールに地方会として親友会が初参加したことであった。昼休みに図書館の裏の木陰に集まり、『モミの木』を練習した。指揮者は須田宏規君(66回)だったが、なかなかの成績であったと記憶

している。

現在の地方会はどうだろうか? 大学生になっている娘たちの話では“大岡谷バンザイ会”があるという。親友会の初参加がその源になっていると私は密かに思っている。娘たちの南陵会(岡谷南部中学校)では釜口水門での校歌練習、清陵祭当日の仮装行列登校、前夜祭の地方会別の出し物の練習も深夜におよび、現在も地方会は健在のようだ。

昨今、親友会OB会も発足した。

OAMA 株式会社 ダイヤ精機製作所

本社工場 岡谷市小井川7978
TEL (0266) 27-7733(代)
営業所 東京都杉並区善福寺3-10-2
TEL (03) 3399-0685(代)

精密機器製造
工作機械用ツール

取締役会長 小口 成人 (44回)
常務取締役 小口 裕司 (79回)
取締役 武田 吉清 (61回)

事務局だより

◆御柱に明けた諏訪地方の平成10年度でしたが、会報24号でお知らせしたように、私たちも御柱お宿を設けて、同窓生はもちろん地域の皆さんや観光の旅行者にも、誰彼の区別なく飲物やつまみを振る舞いました。予算はだいぶオーバーしましたが、皆さんに本当に喜んで頂けましたし、清陵の名も心に刻んでもらえました。詳細については会報24号をご覧ください。接待に当たって下さった同窓生の皆さん、そして良い場所をお貸し下さった諏訪信金さんと高部の田村肇様に心から感謝致します。

◆これも会報24号に掲載されたことですが、平成10年度の事業の一つとして報告します。地藏寺の庭から清水が流れる庫裏の東南、墓地への道脇にある「道志社記念之碑」を一昨年の暮れに改修し、昨年4月20日に15名ほどの役員有志が集まって、清陵の自治のルーツでもある道志社の先輩方の慰霊法要を行いました。これを機に、毎年桜の咲く頃この慰霊法要を続けようということで、今年も4月21日に会長・副会長・学校長をはじめ約30名の役員有志がお焼香を手向け、精進落としの場で友好と紐帯を深めあいました。同窓会の春の行事として定着させて行きたいものと思います。

◆日新堂といえば、年輩の同窓生はきっとご存知の、本通りの鍵の手近くにあった本屋さんですが、当主の宮坂浩一郎さん(46回)が亡くなられてからお店を閉めてしまわれました。3月の末に、故宮坂さんの奥さんが事務局に見えられ、蔵を整理していたらこんなものが出てまいりましたのでと、山本喜市先生が明治42年に「宮坂日新堂」から上梓された「氷滑術初歩」原本をご恵贈下さいました。

平成6年に山本喜市先生顕彰碑保存会が「山本喜市と諏訪の体育」を出版した際にも、やっと捜し求めたくらいのもので、おそらく、2、3冊しか現存しないという貴重なものです。宮坂さんに感謝申し上げるとともにOB文庫に入れて大切に保存致します。

◆本年度寄贈頂いた図書等は下記の通りです。有り難うございました。前記の「氷滑術初歩」とともに、清陵会館2階のOB文庫に入れ、展示貸出し致します。今後ご著書を上梓された節は、同窓会へ一冊ご恵贈下さるようお願い致します。

○渡辺長雄(35回)著「わが世界見聞記」
「渡辺蝶遊集 桜の山」

○林 正七(37回)著「自分はこんな本を読んできた」

○片野 満(56回)企画・編集・撮影ビデオ「清水ヶ丘ハイライト」

○藤森修一(83回)著「新説受験戦争は解決可能である!」「学習指導要領廃止論」

○兵庫県立柏原高校百年史編集委員会編「柏原高校百年史」

○八ヶ岳中央農業実践大学校創立六十周年記念会編「創立六十周年記念誌」

○(財)農村更正協会「六十五年の回顧」

○武田安弘監修「諏訪の百年史」(郷土出版社)

○第72回生 第二校歌冒頭入りオルゴール宝石箱

◆昨年度も終身会費納入のお願いを未納の方々へ郵送しましたが、誤解と混乱があるようですのでご説明します。

本来同窓会の会計は、寄付による基金の利息に頼っていて会費という制度はなかったのですが、創立百周年記念事業を会員からの募金なしで行い基金を大幅に取り崩すため、昭和61年度入学の第92回生から終身会費1万円(現在は2万円)

を徴収することになりました。これに加えて昨今の金利低下で基金の果実による財政運営は立ち行かなくなり、平成元年度の校舎改築時の寄付を終身会費とみなし、この時に寄付を頂けなかった方々から、新入生の納入金に相当する額(1万円)を終身会費として頂くということが、平成6年度の定期総会で議決されました。

ところで、東京支部(東京清陵会)でも独自に終身会費1万円を集めており、金額も名前も同じということで混乱が生じてしております。同窓会は本会の下に12の支部があり、それぞれが独立会計で事業を行っております。多くの支部が年会費を集めていますが、東京だけは終身会費制度をとっていますので、関東在住の方々は「終身会費」という名前のものを本会と東京支部との両方に納入して頂いているわけで、このところが大変紛らわしく、どうかご理解頂きたいと思います。なお現在本会ではこの終身会費と「クラブ後援会費」(年額2,000円、5年分一括1万円)の二つを、それぞれ未納の方にお願ひしております。またこの二つは決して強制でも義務でもないことをつけ加えておきます。

◆今年度の同窓会事務局のメンバー

・事務局長 小口祐一(47回)

・学校同窓会係

主任 今井保寿(62回 理科)

係 平林義男(73回 美術)

篠遠秀樹(81回 国語)

味沢秀治(83回 数学)

藤沢幹彦(92回 数学)

伊東仁美(97回 家庭)

・事務局

〒392-0007 諏訪市清水1-10-1

諏訪清陵高校同窓会

(〒392-8548で住所なしで届きます)

TEL 0266-58-0356 FAX 0266-57-0348

会報の原稿及広告募集

「支部だより」「学年だより」の原稿(学年会や支部の活動で、こんなことをしたというような報告)または清陵に関係のある随想や個人的なご意見・研究などをご提供下さい。

また、最近の経済情勢から、広告を掲載してくれる企業が少なくなりつつあります。会報の制作には、広告収入が欠かせませんのでどうか同窓会活動をご支援下さるお気持ちで、広告掲載をお願いします。また種々な面において実質的宣伝効果も大きいものと確信します。1段通しで4万円、半分のが2万円です。

編集後記

多くの皆様のご協力により第25号同窓会報が発行出来ますことに心から感謝申し上げます。会報の編集にあたり清陵卒業以来の旧交を温めることも出来ましたことは役得というものでしょうか。

今回は60年安保を取り上げましたが、奇しくも今、日米ガイドラインが取りざたされています。時代背景もさることながら自分も含めて、国の将来を思い、見据えて、現在を考える純粋さが無くなった現日本人。流れ着く先は一体何処でしょうか?

66回生学年幹事 松尾邦昭 会報編集委員長 水岸一洋